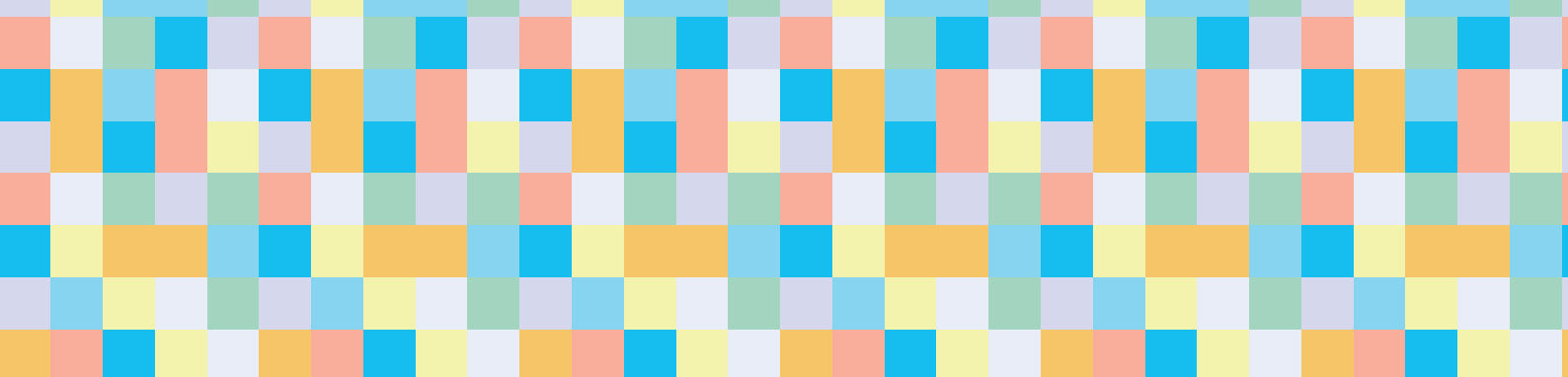


UDCTak

アーバンデザインセンター高島平

平成 28 年度 年間報告



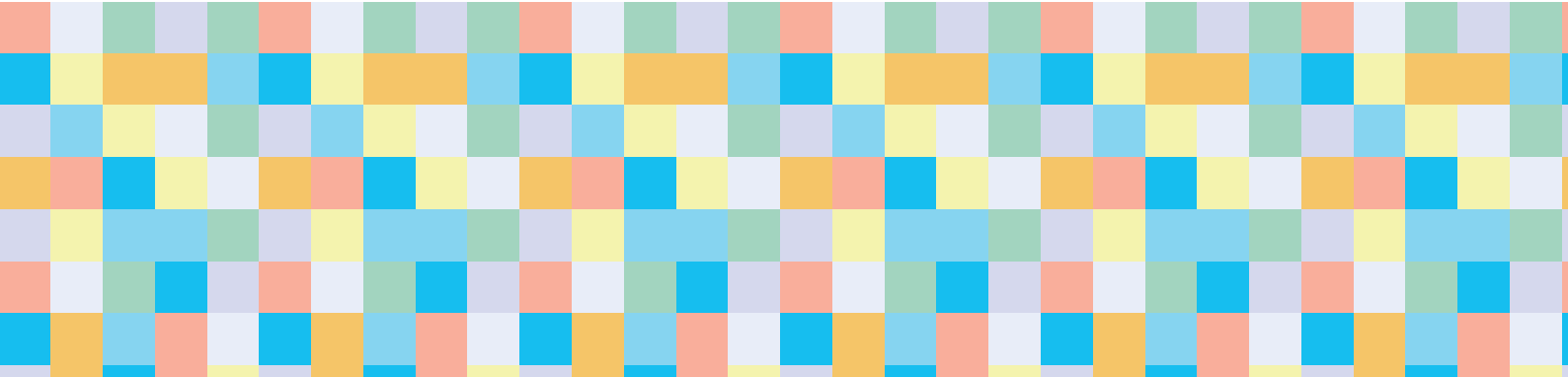


INDEX

I UDCTak の概況

- 1. 設立の背景 : p02
- 2. 設立経過 : p03
- 3. UDCTak について : p04

II 活動報告

- 1. 設立プレイベント : p08
 - 2. 設立記念イベント : p10
 - 3. 「高島平みらいゾウ」アンケート結果 : p48
 - 4. 高島平プロムナード基本構想(素案)の検討 : p51
- 

I

UDCTak の概況

- 1. 設立の背景 : p02
- 2. 設立経過 : p03
- 3. UDCTak について : p04

1 設立の背景

高島平地域の現状

高島平地域は、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半にかけて、一時に都市が誕生したという特殊な成り立ちを持っています。

誕生後しばらくは、“高島平団地”を中心に、住民の多くをファミリー世帯が占めており、まち全体がにぎわいと活力に溢れていました。しかし、それから 40 年以上が経過し、団地や公共・公益施設等の老朽化と少子高齢化の進行等により、地域全体のにぎわいや価値（ブランド力）の低下を招いています。

『高島平地域グランドデザイン』

そこで、板橋区は平成 27 年 10 月に高島平地域グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という）を策定し、「東京で一番住みたくなるまち」の実現を目標に、ターゲットとする 20 代から 40 代までの若者世代が集い、移り住みたくなる魅力創造と、高齢者を含む多様な世代が歩きや自転車利用を中心とした生活を楽しんで暮らすことができる都市モデルを提案しています。

グランドデザインでは、具体的に取り組むべきテーマとして、①にぎわい創出、②ウェルフェア（医療福祉）、③スマートエネルギー（効

率的なエネルギー利用）、④防災・防犯を位置づけるとともに、鉄道駅を中心とした交流核や生活核の形成、プロムナード（散策道）、歩行者・自転車ネットワークで構成するエリア単位の空間像を提示しています。

グランドデザイン実現に向けた主な課題

グランドデザインの実現は行政だけでは達成できません。高島平地域には、昔から様々なコミュニティや地縁組織があり、そうした方々の思いを取り込み、まちを再生していくことが重要です。

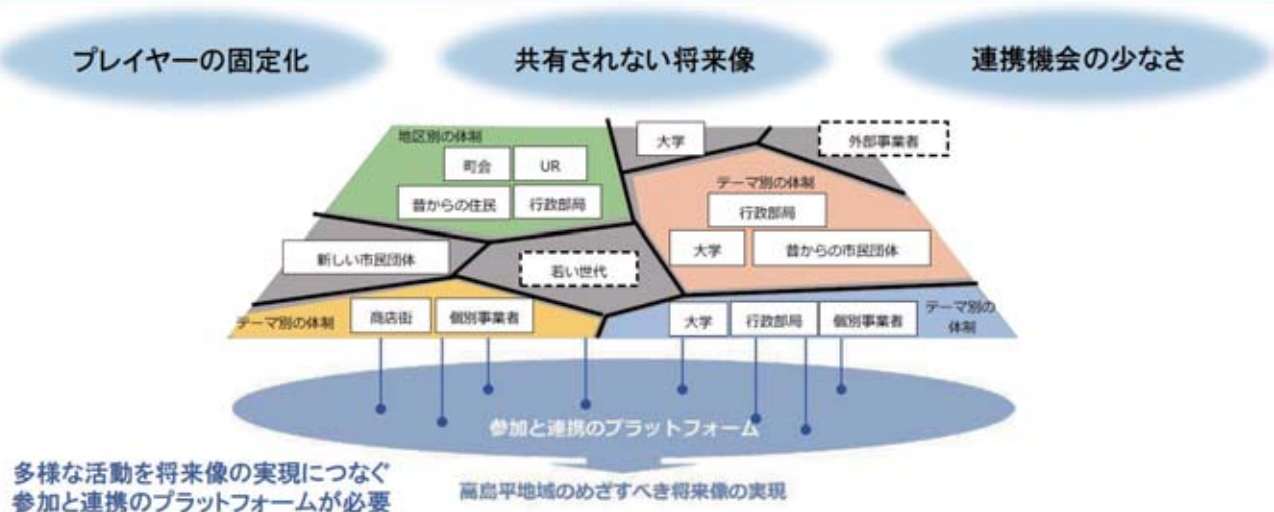
一方で、未来志向のまちづくりに向け、地域内外の若い人の参画も必要不可欠です。

さらに、事業を動かすためには、民間事業者や大学等の専門家の存在も大切です。

しかし、高島平地域には、こうした「民・学・公」の各分野のプレイヤーを繋ぐ、連携の機会が少なく、それがまちづくり上の課題の一つとなっています。

この「参加と連携のプラットフォーム（基盤）」として機能するのが、アーバンデザインセンター（以下「UDC」という）であり、その必要性については、グランドデザインの中でも謳われています。

将来像の実現に向けた課題



2 設立経過

デザインセンター設立準備会

グラウンドデザインで掲げる4つのテーマを推進し、将来にわたって持続可能な活力あるまちへと発展するために、継続的な活動支援と新たな活動の育成を担い、まち全体をマネジメントすることが必要であり、その役割を担うのがUDCです。

高島平版のUDCの設立に向けては、民・学・公からなる設立準備会を設置し、理念、活動方針、組織体制等、UDC設立に関して必要な事項の検討を行いました。

■デザインセンター設立準備会委員

(構成員7名/◎会長、○副会長) <敬称略>

[民] 板橋区町会連合会 高島平支部長

[民] 板橋区商店街連合会 第七支部長

[学] 東京大学大学院 新領域創成科学研究科
出口 敦 教授◎

[学] 東京大学大学院 工学系研究科
樋野 公宏 准教授

[公] 独立行政法人都市再生機構
東日本賃貸住宅本部

東京北エリア経営部団地マネージャー

[公] 板橋区 政策経営部長

[公] 板橋区 都市整備部長◎



準備会の様子

検討経過

準備会は平成28年1月～7月にかけて3回開催されました。公式な会議だけでは、議論の機会が限られるので、それを補完するものとして、事前に個別に意見交換を行う場を設けたり、必要に応じて、検討協力者(柏の葉アーバンデザインセンター(以下「UDCK」という)副センター長等)からも助言をもらう等して、検討を進めました。

準備会の検討成果は「高島平地域におけるデザインセンター設立検討報告書」として取りまとめ、区長に提言しました。

<第1回準備会>平成28年1月29日

- ・理念、活動方針
- ・名称
- ・組織体制
- ・平成28年度の活動内容
- ・スケジュール

<第2回準備会>平成28年4月22日

- ・デザインセンターの規約(案)及び組織体制
- ・若者の参画・参加の仕組み
- ・平成28年度、29年度以降の活動内容

<第3回準備会>平成28年7月14日

- ・デザインセンター設立準備会報告書(案)

<区長への提言>平成28年7月26日



区長への提言の様子①



区長への提言の様子②

3 UDCTakについて

平成 28 年 11 月 6 日「民・学・公」が連携してまちの将来像を描き、実現するまちづくりのプラットフォームとして、「アーバンデザインセンター高島平（以下「UDCTak」という）が設立されました。

UDCTak は「東京で一番住みたくなるまち」の実現に向け、まちづくりを推進していきます。

対象エリア

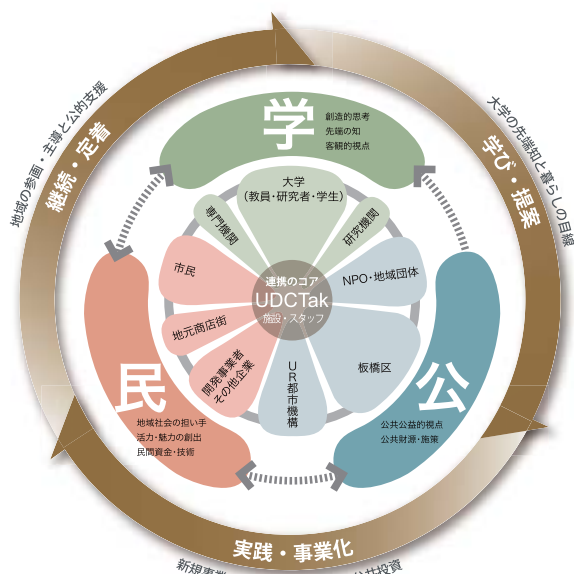
高島平の歴史的な成り立ちや、日常生活圏等から高島平一丁目から九丁目を活動対象としています。

活動の目標

多くの人を惹きつけ、時を過ごし、住みたい、働きたい、暮らし続けるまち（願いに応え、みんなでつくる『高島平スタイル』）を実現することです。

活動の基本理念

- ・まちづくりに関わる民・学・公の様々な団体や個人が、それぞれの主体性のもと連携し、地域の将来像の実現を目指します。
- ・「学び考え提案する」「実践し事業化する」「持続的に運営し定着させる」というサイクルで活動を推進していきます。



民・学・公連携の概念図

活動方針

「地域デザイン」、「まちづくり事業」、「まちの維持管理運営」等による一体的なエリアマネジメントに取り組み、以下の活動（事業）を行います。

① まちづくりにかかわる調査・研究

大学や専門家との連携によるまちづくりのニーズの調査・研究や最新事例の研究・研修を通じた先進的プロジェクトの検討・提案。

② 空間デザインと公共空間の活用方策の検討

高島平地域の優れた空間資源を活用した地域の魅力づくり

③ 地区別まちづくりの検討と事業化支援

地区毎の課題に応じたまちづくりの検討の場の設置及び事業化に向けた関係者間の調整

④ グランドデザインの実現+αの提案や支援

グランドデザインに示されたテーマに応じたプロジェクト提案やその推進支援

⑤ 魅力の発信、PR

戦略的な情報発信による、地域の新たなイメージ、ブランド力の構築

⑥ センター機能の強化と持続的運営の枠組み構築に向けた協議・調整

持続的運営に向けた運営協力体制の構築、拠点施設の早期確保、運営財源の獲得、法人格の取得に向けた検討、協議や調整

UDCTak(ユー・ディー・シー・タック) は…

- ✓ 未来志向で多様な主体がまちの将来ビジョンを議論し共有するための場となります
- ✓ 従来型のまちづくりの枠組みを超えて民・学・公が連携し、新たなプロジェクトを具現化する場となります
- ✓ 若い世代を含む新たなまちづくりの担い手を育て巻き込むオープンな場となります
- ✓ 地域の空間資源を生かして都市のリデザインとマネジメントを行う専門機関となります

運営・組織体制

① 「民・学・公」の各関係組織の主体的な参加と持ち寄り型の運営

多様な主体が運営に関われるオープンな組織体とし、人・活動・空間・資金を持ち寄り運営する共同運営体制を基本としています。

まちづくりや UDCTak の運営において、一定の責任と役割を果たす民・学・公の主要機関（構成団体）を明確にし、UDCTak 運営への主体的な参加を促しています。

② 二層構造の運営、現場の動きの尊重

現場における活動のしやすさを尊重し、管理運営のための意思決定機関と現場の活動を担う実行部隊との二層構造となっています。

UDCTak 運営の基本的枠組みや年次毎の事業方針を協議・決定する「管理運営のための協議体（理事会）」と、現場を担う「運営機構」の2つの枠組みで構成しています。

③ 運営の柔軟な見直しと将来的な自立化

まちづくりの進捗に対応できる柔軟な組織であることが求められ、理事会では組織運営のあり方、プロジェクトの内容等について不断の評価・見直しを行っています。将来的には、公共空間を活用したまちづくり事業や指定管理者制度による管理の受託等の自主財源の確保により、自立的な運営体制への移行を目指しています。

④ 組織の形

まずは3年を目処に、プロジェクトを生み出し軌道に乗せることを目指しています。当面は、自由度の高いプラットフォームとして、任意団体としていますが、3年後に継続の是非（存続・廃止を含め）を議論し、運営体制について見直すこととしています。

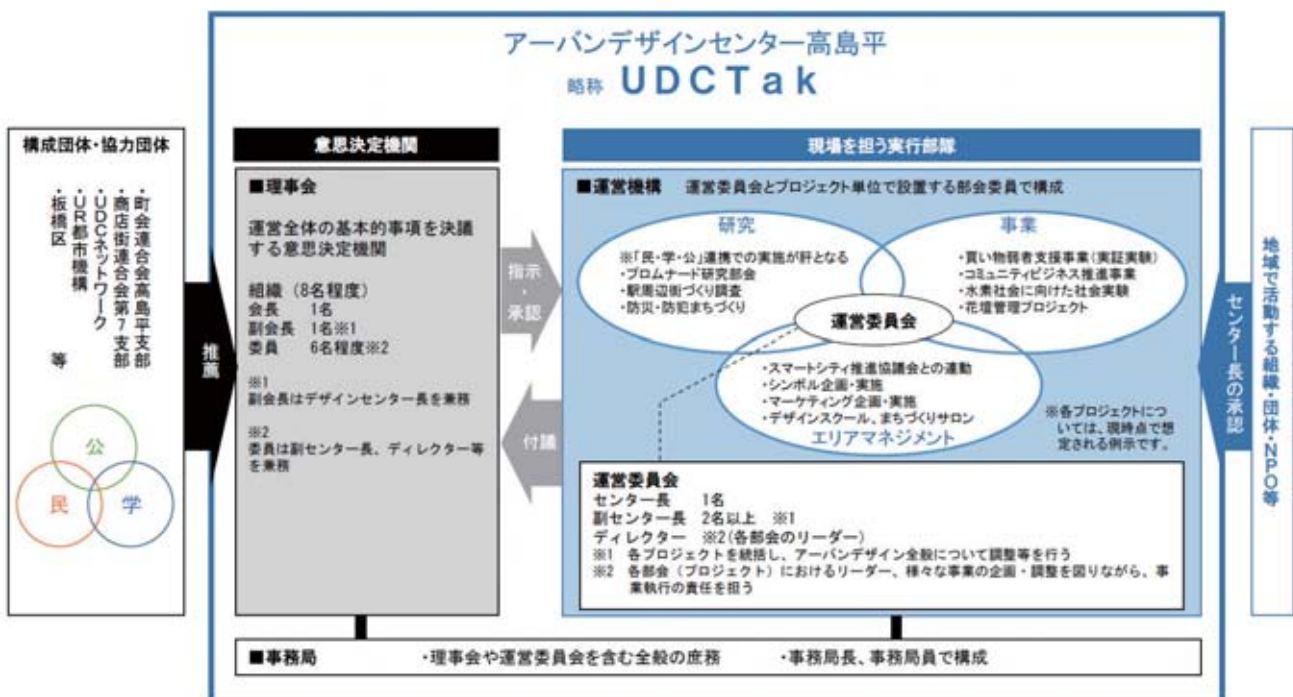
民 × 学 × 公

町会連合会高島平支部
商店街連合会第7支部

UDC ネットワーク※

UR 都市機構
板橋区

※UDC ネットワークとは、全国各地に展開しているアーバンデザインセンターのネットワークであり、各センターの運営メンバーで構成されています。UDCTak のセンター長となる出口敦東京大学教授が代表を務めています。



当面の活動内容（平成 28 ～ 29 年度）

UDCTak は次に挙げる 7 つの活動を柱としています。ニーズや効果の高いものから、先行的に進めながら、地域からの声や活動の盛り上がりを踏まえて、新しい活動を増やしていきます。

① プロムナードのリデザイン（再整備・リニューアル）とマネジメント

- ・先行して取り組むプロムナード整備の検討の継続と参加者やサポーターの拡充
- ・プロムナードを活用した新たなイベント等の実施

② 地区別まちづくりの検討と事業化支援

- ・旧高七小跡地を含む公共用地の再整備に向けた具体的な検討を公・民・学の連携により行い活用方針を提言
- ・周辺エリアの連鎖的都市再生についても、中長期的な視点で検討

③ こども × まち 未来の担い手育成プロジェクト

- ・子育て世代向けのイベントの企画
ー世代・属性別の地域マップづくり
ー学校カリキュラムと連携したまちづくり学習等

④ 広報ツールの作成と充実

（ロゴ、ウェブサイト、広報誌）

- ・まちの魅力や UDCTak の取組の情報発信
- ・ホームページや SNS、FB 等を活用し、イベントの案内や活動報告
- ・機関紙（ニュース）の発行や既存の地域情報媒体との連携

⑤ センター拠点化事業（まちづくりサロン）

- ・何か高島平で面白いことをしたい人、感度の高い人が集まり意見交換をする場の定期的な設置

⑥ デザインスクール

- ・学識経験者や大学生、企業や行政等と地域住民が、まちづくりの課題等について継続的に話し合い、実際のまちづくりや空間デザインに反映

⑦ 連携会議

- ・関係機関や地域活動団体等との定期的な情報交換やイベント実施に向けた調整等の会議の開催



II

活動報告

1. 設立プレイベント : p08
2. 設立記念イベント : p10
3. 「高島平みらいゾウ」アンケート
結果 : p43
4. 高島平プロムナード基本構想
(素案) の検討 : p45

1 設立プレイイベント

開催概要

日 時：平成 28 年 10 月 30 日（日） 10：00～16：00

会 場：高島平緑地内噴水広場付近 ※「高島平みらいゾウ」への付箋数：171 枚

一日限定のプレイメイキング

平成 28 年 10 月 30 日（日）に高島平緑地の噴水広場において、UDCTak の設立プレイイベントを開催しました。

UDCK より屋台を借り、公共空間をオープンカフェスタイルの居心地の良い滞留スポットに変え、パネル展示や東京大学の学生の模型による提案の展示を行いました。

1 日限りの試みでしたが、子どもから高齢者まで多くの方に来場頂き、高島平に住む方々の声を聞き、まちづくりへの関心の高さを実感することができました。

オープンカフェスタイルの滞留空間では、落ち着いてお茶を飲む方、仲間と談笑する方、まちづくりについて語り合う方、小さなお子さんとのひと休みなど、皆さんそれぞれの使い方ですぐと違った空間を楽しんでいました。

また、「高島平みらいゾウ」には、「未来の高島平はどんなまち？」「高島平の好きなところ」「高島平緑地でしたいこと」という 3 つのテーマについて、訪れた方の声を付箋に書いて貼り付けて頂きました。幅広い年齢層の方からたくさんの声（付箋）が集まり、「高島平みらいゾウ」は地域の方の思いが込められた付箋でカラフルに彩られました。



居心地の良い場の提供 ～滞留空間～

プレイメイキングは直訳すると「場づくり」ですが、単にハードとしての「場」をつくるのではなく、居心地の良い空間を提供し、その「場」の体験を通して、その「良さ」を実感してもらうことが大切です。

今回の試みでは、アスファルトの広場に人工芝を敷いて、イスとテーブル、パラソルを設置し、誰でも気軽に立ち寄れる空間を設えました。また、子ども達が楽しめるようにと、ハンモックも設置しました。

駅前と向かいがスーパーマーケットという立地から、人通りの多い場所ではありますが、通過することはあっても滞留することは少ない空間でした。しかし、こうした装置を置くことで、人々が一定の時間を「過ごす」ことができる場所へと変化させることができます。

高島平の皆様にも、いつもの広場がちょっとした工夫によって「見違える」ことを実感して頂けたことと思います。



UDC Tak cafe ～コミュニケーション～

屋台では、「高島平みらいゾウ」にコメントを頂いた方に、お礼として飲み物とお菓子を提供しました。

オープン直後は寒かったこともあり、立ち寄って頂ける方はまばらでしたが、人が人を呼び、少しずつ話を聞いて、コメントを書い
てくださる方が増えました。

また、お礼の飲み物とお菓子を提供することで、いつもとは違った空間でオープンカフェ気分を体験して頂きました。

座ってコメントを書きながら、夫婦や親子で、小学生のグループは仲間同士で、自然と会話がはずみ、対面しているスタッフとも交流が生まれるきっかけとなりました。



パネル展示 ～情報発信～

UDCTak 等のパネル展示も行いました。通りすがりに興味を持ち、じっくりと読んで下さる方や近くにいるスタッフに質問をしたり、模型を眺めながら未来の高島平について話をしたりと、パネル展示を通して地域の皆様が高島平の未来について考える機会になったのではないかと思います。

そして、なにより UDCTak としても、これから高島平で何かが動き出すことを地域の方々に PR することができました。

<パネル展示の内容>

①UDCTak について

- ・ 設立の目的、特徴
- ・ 活動内容、運営体制 等

②高島平プロムナード基本構想について

- ・ 検討中のプロムナード基本構想の概要
- ・ 東京大学学生によるプロムナードの整備提案の紹介



2 設立記念イベント

開催概要

日 時：平成 28 年 11 月 6 日（日）13：45～16：15
会 場：高島平区民館 ホール
参加者：127 名（男性 95 名、女性 31 名、子ども：1 名）

進行プログラム

開会（13：45）

オープニングイベント

- （1）設立宣言（UDCTak センター長、東京大学大学院教授 出口 敦）
- （2）区長挨拶（板橋区長 坂本 健）
- （3）来賓挨拶（板橋区議会 議長 杉田 ひろし）
- （4）来賓紹介

基調講演（14：05）

『「民・学・公」連携によるまちづくり』

（UDCTak センター長、東京大学大学院教授 出口 敦）

休憩（14：35）

パネルディスカッション（14：45）

『「民・学・公」連携で進める高島平のまちづくりについて』

※コーディネーター：UDCTak センター長、東京大学大学院教授 出口 敦

パネリスト（50音順）

東京農業大学	阿部 伸太	准教授
東京大学大学院	樋野 公宏	准教授
筑波大学	藤井 さやか	准教授
大東文化大学	飯塚 裕介	講師



平成 28 年 11 月 6 日（日）に設立記念イベントが行われました。当日はUDCTakのセンター長となる東京大学大学院 出口敦教授の設立宣言で開会し、板橋区の坂本健区長及び、杉田ひろし区会議長よりご挨拶を頂きました。

続いて、出口センター長より UDC の国内第一号であるアーバンデザインセンター柏の葉（以下「UDCK」という。）を事例に「民・学・公」連携によるまちづくりについて講演して頂き

ました。

パネルディスカッションではコーディネーターの出口センター長と 4 名のパネリストにより「民・学・公」連携で進める高島平のまちづくりについて議論して頂きました。

会場は、堅苦しくならないようにとの趣旨から、後方に休憩スペース等も設置し、休憩しながら参加頂けるように趣向を凝らしました。



坂本 健（板橋区長）

UDCTak の設立記念の日に、大勢の方々のご参加頂き感謝致します。

関係者の皆様方のご協力を頂き、このUDCTak によって板橋区ならびに高島平のまちづくりに大きな前進と成果が現れるように、皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

高島平は非常に有名な地域で、恐らく板橋区の名前よりも高島平の方が全国的に知名度が高いのではないかと思います。昭和 40 年代の半ばからこの地域の開発が始まり、多くの方の憧れの場所として、全国から移住されたとも聞いています。大変、先進的な都市でもあったため、この地域の人気は極めて高く、現在に至っております。

しかし、現在の高島平地域には課題も多くあります。40 年以上が経過し公共施設や団地も含めた建物等の老朽化問題が喫緊の課題です。また、高齢化は、区の他の地域の 2 倍のスピードで進んでおり、高齢化への対策が急務な地域でもあります。

しかし、高島平地域は介護度が非常に低く、この地域の皆様が、いかにこれまでコミュニティを大事にしながら、健康面に留意してきたかが分かります。この健康的で先進的な高齢者の地域を今後とも、区政としてどのように考えていくのかというのが大きな問題であると思っています。

そこで、板橋区は、「民・学・公」の連携で、関係者の方々の同意や、色々な意見を集めながら進めていくまちづくりのデザインセンターということに注目しました。そして、出口先生をセンター長として、全国で 14 番目

のUDCとしてUDCTakが誕生致しました。

東京都内初のUDCであり、しかも計画的に整備されたまちとしても初の試みです。そういう意味では、多くの方がこのUDCTakに大きな関心を持っているのではないかと思います。日本でも類をみない高齢社会であり、大規模な成熟したこの地域を、いかに世代交代しながら住みやすくしていくかということは、我々が取り組むべき大きな問題であると思っています。

そのためには、これから 30 年、40 年先の高島平の未来を、自分達で考えていくという仕組みが大事だと思っています。

この実現に向けて、UDCTak を中心に、多くの方々にまちづくりに参加して頂き、センターの機能を十分に発揮しながら、高島平のまちづくりを進めていきたいと思っています。

板橋区も、高島平地域グランドデザインの実現とUDCTakの持つ役割について、総力を挙げて取り組んでいく決意であります。

今回のUDCTakについては、公的な機関も含めて、民間企業の皆様や民間事業者、また地域の関係の皆様等多くの方々にご協力を頂きました。これら多くの皆様方の力をお借りしながら、また一緒になって取り組むことができると思っております。

本日の設立を機に、高島平が益々発展できますように、今日お集まりの皆様には更なるご協力とご理解をお願い申し上げます。

1. アーバンデザインセンターについて



出口 敦（東京大学）

都市というのは人間が住みやすくするために、デザインしてつくったものであり、これからもデザインし続けなければならないものです。

そして、ずっと使い続け、暮らし続けなければならないものでもあります。そのためには地域で自らマネジメントをしていくことが必要です。

このように都市は自らデザインするものであり、地域でマネジメントしていくものだというのがアーバンデザインマネジメントの基本的な考え方です。それを実際に、行政の外郭団体とは違った中立的な立場で、「民」と「学」と「公」とがお互いに色々なものを持ち寄って参加して、まちづくりを進めていく組織が UDC です。

一見それは不安定に見えるかもしれません

が、実はそれが、自らデザインし、マネジメントする組織としては一番理想的な形ではないかと私は思います。そういった考え方に基づいて UDC を立ち上げ、運営を進めてきました。

UDCTak は都内では初めて、全国では 14 番目の UDC となります。これまでは、立地の良さでまちが栄えてきましたが、高齢化や人口減少が進んでいく中では、地域の資源を生かし、変化に合わせて、まち自体を新しい時代、新しいニーズに対応するように進化させていくことが求められるでしょう。それが都市デザイン、或いはアーバンデザインの役割だと思っています。

2. 全国の UDC

全国各地に UDC が設立していますが、それぞれ課題が異なります。UDCK は区画整理事業で新しくまちをつくっている中で設立されました。

「アーバンデザイン・マネジメント」の基本的考え方

都市/地区は、自らデザインするもの。
都市/地区は、暮らし続けるもの。
地域でマネジメントするもの。

◆都市デザイン／再デザインの役割の背景とは...

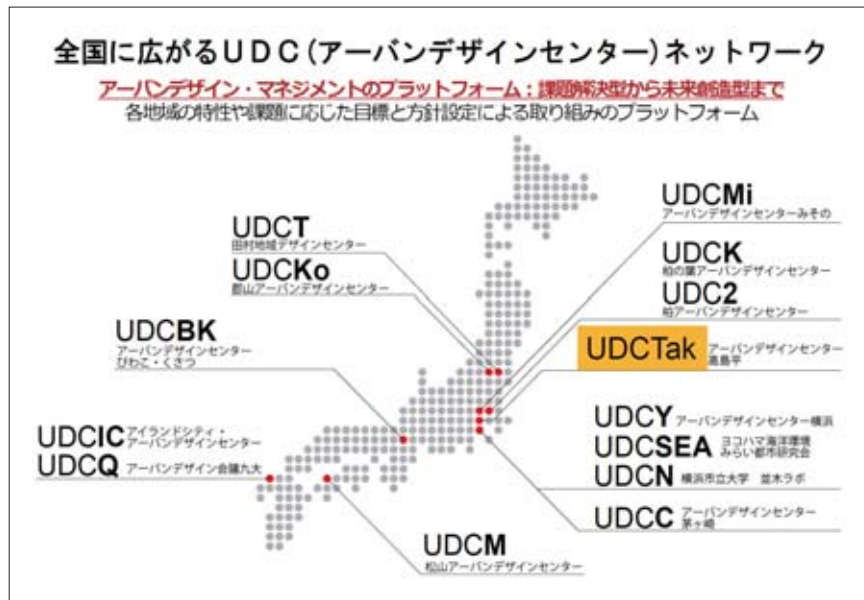
- ・これまでの考え方（立地の良さが優先する：立地決定論）から
これからの考え方「地域の資源を活かす：地域資源優位論」への転換

◆都市デザイン／再デザインの意義とは....

「変化の力」を利用して都市を「進化」させる

- ・都市は人が創った生き物...「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」
（ダーウィン）

「アーバンデザイン・マネジメント」の基本的考え方



全国に広がるUDC (アーバンデザインセンター) ネットワーク

福島は UDCT や UDCKo では、復興計画の作成支援、地方の空洞化、衰退化の再活性化を担っています。

地域の特性や課題に応じて目標や方針の設定は違うのですが、同じ「民・学・公」の体制で取り組んでいる兄弟分のセンターとなります。

3. UDCK (柏の葉) について

UDC の第一号である UDCK を簡単に紹介します。

UDCK では全くの更地から新しいまちをつくっていく中で、その中心的な役割を UDCK が担うという目的で、2006 年に設立されました。今月で、ちょうど 10 周年を迎えます。

柏の葉の今のまちづくりのポイントを大きく 2 つ、今日は挙げておきたいと思います。

1 つは UDCK の存在です。都市開発には色々な方が関わっていきます。区画整理をやっている千葉県がインフラをつくり、その維持管理は柏市の市役所が行います。公園等の公共施設は市役所がつくっていきます。それから、その上に上物の施設をつくっていくのはディ

ベロッパーや民間事業者です。そして、そこに住み始めた住民の方々が、まちをまちらしく育てていく、あるいはコミュニティを育てていきます。

このように、様々な関係者の方が関わっていきます。まちづくりというのは活動から始まりますが、その活動を集める場所がありませんでした。その活動が集まって、あるいは人が集まる場として、UDCK が 10 年前に発足しました。

UDCK の初代のセンター長は今から 3 年ほど前に亡くなってしまいましたが、東京大学の北沢猛先生です。北沢先生は、元々横浜市役所に勤めていたご自身の経験から、こうしたセンターの必要性を強く感じ、関係者に働き掛けてUDCをつくりました。

2 つ目は、マスタープランの存在です。それは、関係者の方々が皆で将来像あるいは方針を共有していくための計画のようなものですが、ここでは「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を 2008 年に策定しています。UDCK が発足して最初の仕事のひとつが、このキャンパスタウン構想をつくり上げたことです。まちの様々な方が、それぞれ色々なプロジェクトを進めていく中で、皆で進んでいく



柏の葉におけるアーバンデザインの仕組み

方向性をこの構想によって共有しているということです。

この存在は非常に大きいと思います。この2つを最初につくり、皆で構想を目指していったというのが、大変上手くいっていると言われている要素ではないかと思います。

ここ板橋区では「民・学・公」と言い、我々は「公・民・学」と言っていますが、それぞれの役割で、それぞれが色々な施設の運営費等、空間と人とお金を出し合って、行政とは独立したところで組織を運営していくということを進めています。

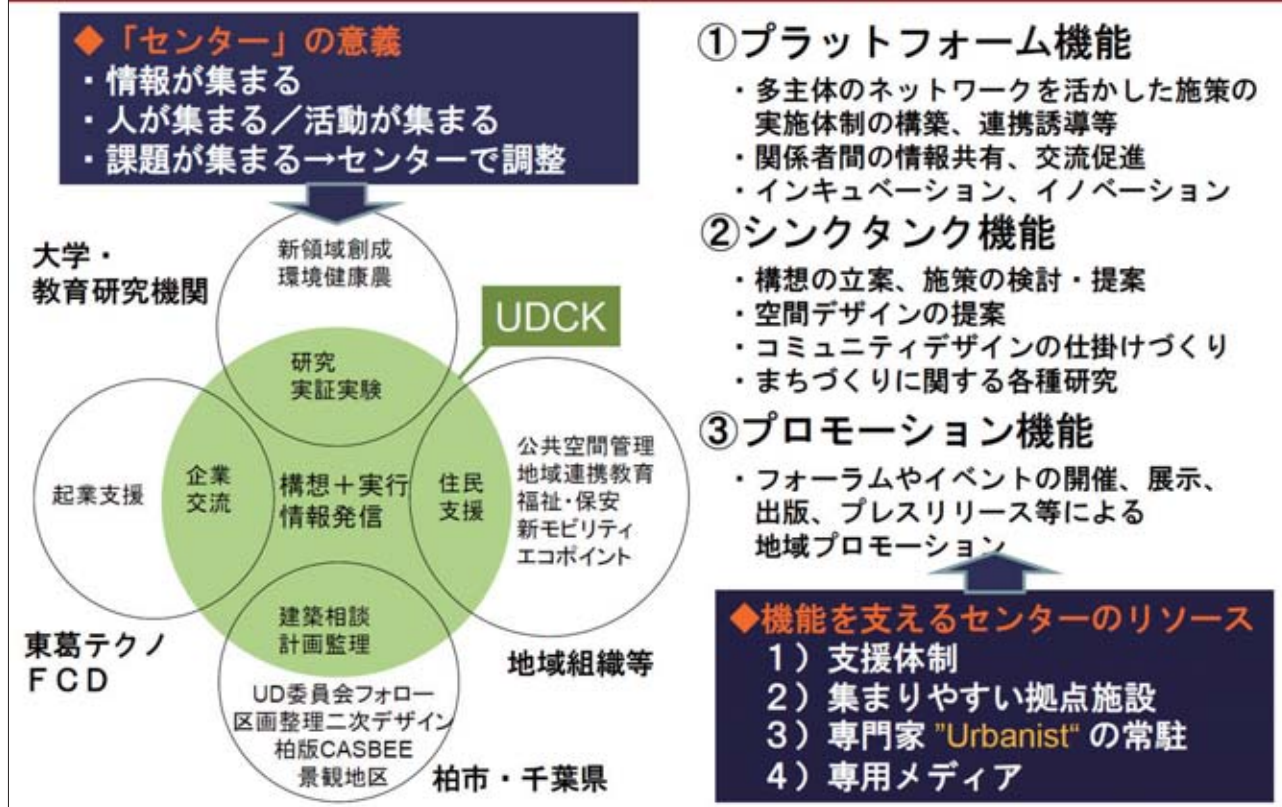
また 2011 年には一般社団法人も設立し、今は法人格を持った UDCK と任意団体としての UDCK が共存している形を取っています。

実際にコミュニティを育てていくための取り組みも、まちのクラブ活動をつくったり、千葉大学が中心となって「カレッジリンク・プログラム」という社会人向けのプログラムを運営したり、サポートしたりしています。様々な取り組みをしていますが、そこに住み始めた方々のコミュニティを育てていく役割が中心で、UDCK が色々なチャンネルになり、あるいはサポートも行っています。



次世代移動交通の実験

UDCKのセンター機能



UDCKのセンター機能

更に東京大学、千葉大学も関わっているので、交通の実験等色々な社会実験も進めています。それから公園や小学生のための通学路等の公共空間整備にも携わっています。都市計画の専門家を始めとするディレクターがここに常駐し、県や市、民間事業者の間を取り持つような調整の役割を担っています。

また、民間組織とUDCKが柏市と協定を結び、駅前広場と駅前通りの管理も行っています。

以上のようにUDCKは、公・民・学連携のチャンネルのような役割を担っています。新たな課題を予測・分析し、実際にそれを解決していくための社会実験や実証実験を提案・実施し、それらを持続的に運営しています。UDCKは、そうした仕組みを導入していく役割を果たしています。

UDCには活動が集まり、人が集まってきます。そうすると、自ずと情報も集まり、問

題が集まって来ます。集まって来た問題を皆で知恵を出し合って議論をし、解決していく事が、センターの意義です。

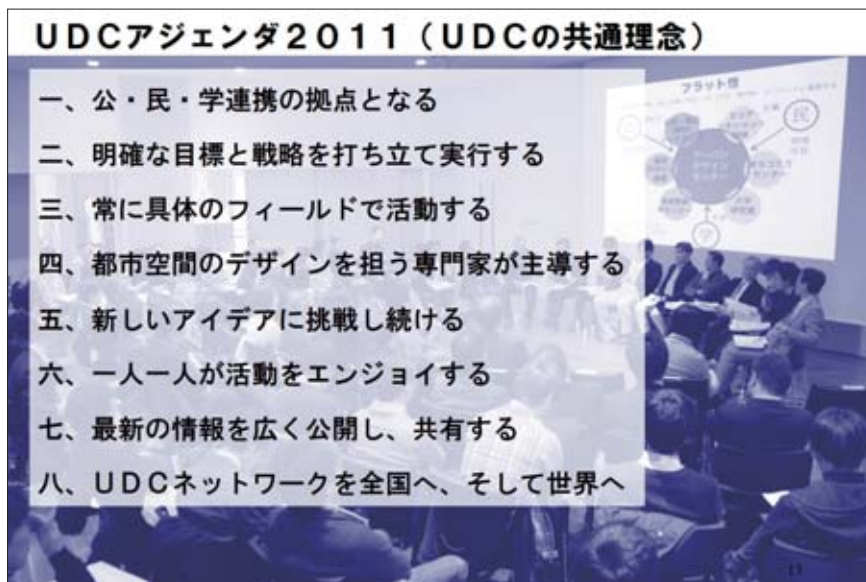
今ではそういった活動のプラットフォームの役割やシンクタンクの役割に加えプロモーションの役割も担っています。

また、UDCKには専門家が常駐しているため、こうした機能を支えるためのセンターのリソースが用意されています。

このように、活動や人が集まる場所からスタートし、今では問題を解決するための方策を皆で集まって考えていくためのセンターとして機能しています。

UDCKが設立して5周年を迎えた2011年に記念のシンポジウムを開催し、関係者が集まりました。そこで関係者が集まって、UDCの共通理念を整理し、共有しています。

高島平は、こういった考え方に共鳴し共感して、発足に至ったのだと思います。



UDCアジェンダ2011 (UDCの共通理念)

既にランドデザインで、この地域の4つのテーマが打ち出されています。にぎわい、ウェルフェア、スマートエネルギー、それから防災、防犯です。こういったものに取り組むための組織として、また、多様な活動や将来像を実現につなぐ産学連携のプラットフォームとして、UDCTakをつくることになりました。

センターの体制としては、「民・学・公」連携のUDC方式のアプローチをしていくことになりました。

それがビジョンを共有する場になり、様々

な関係者が連携して新たなプロジェクトを具体化する場所となり、更に若い世代の方々を新たなまちづくりの担い手として育てる場となります。

また、プロムナードや公園等の様々な施設や地域の空間資源を活かして都市を再デザインしたりマネジメントを行ったりする専門機関としてUDCTakを本日、設立しました。

対象とする区域は、色々な歴史的な成り立ちから高島平の1丁目から9丁目の区域を対象としています。

目標は、多くの人たちを惹きつけ、時を過



「アーバンデザインセンター高島平」設立の提言

ごし、住みたい、働きたい、暮らし続けるためのまちを実現していこう、そこに高島平なりのスタイルをつくり上げていこうということです。

基本理念は、「民・学・公」の様々な団体や個人が、それぞれ主体性を持って連携しようというものです。また、地域で学んで、考え、提案し、実践して事業化していく。そして持続的に運営して定着させる。こういったサイクルで活動を推進していくための場を提供していくのが UDCTak の役割だと思っております。

活動方針を大きく 6 つ挙げています。まちづくりに関わる調査・研究を進めていくところから、空間の活用方針、それからグランドデザインの実現です。更に魅力の発信や PR があります。この地域を全国のモデルケースとして、全国一、住みやすいまちにしていくなための魅力発信を担っていきます。

そのためには、必要となる様々な協議や調整の役割を担っていくことを方針として考えています。

具体的な取り組みは、まだ構想段階ではありますが、プロムナードの再整備や保全、活用とそのサポートや活動の推進等が、この

UDCTak の役割となります。

また、小学校の跡地等の利活用や、その周辺のまちづくりの検討、子供や青少年達のまちの未来の担い手としての育成に向けたプロジェクトの推進、地域ブランドの PR・発信の役割、コミュニティ育成やまちづくり連携に向けたサロンの開催や大学との連携による勉強会やデザインスクールの開催等、地域で活動する団体を横につなぐ連携の場づくりにも取り組みたいと思います。

今回こうしたまちづくりの活動の中心となる体制が整いましたが、これからが本当に大変だと思います。

初めてのことも多く、やってみないとわからないということが、まちづくりには数多くあります。そういったものにチャレンジしながら、進めながら、この組織を強化し、まちの魅力向上につなげ、新しいアイデアを培っていくことができればと思っています。

「民」と「学」と「公」のそれぞれの役割があります。「民」は住民の民でもあり、民間事業者の民でもあり、あるいは区民の民でもあり、住民や区民の方々の行動力に、期待し、お互いに協調精神を発揮して、新しい事業にもチャレンジして頂きたいと思ってい

UDCTak の活動方針	
1	まちづくりにかかる調査・研究
2	空間デザインと公共空間の活用方策検討
3	地区別まちづくりの検討と事業化支援
4	高島平地域グランドデザインの実現 +提案、支援
5	魅力の発信、PR
6	センター機能の強化と持続的運営の 枠組み構築に向けた協議・調整

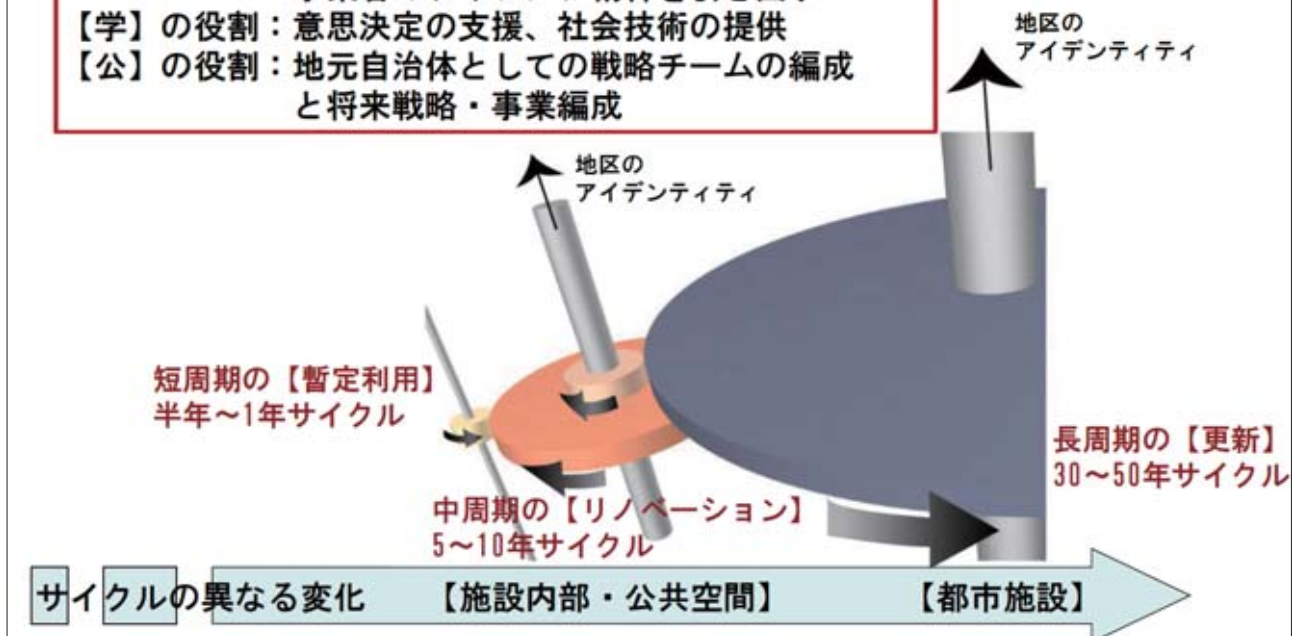


UDCTak の活動方針

様々なスケール・タイプの取り組みの噛み合わせから 「高島平型アーバンデザイン・マネジメント」へ

◆まちづくりは映画づくりと同じチーム力（篠原修先生談）

- 【民】の役割：将来を見据えた住民・区民の行動力と協調
事業者のチャレンジ精神を引き出す
- 【学】の役割：意思決定の支援、社会技術の提供
- 【公】の役割：地元自治体としての戦略チームの編成
と将来戦略・事業編成



「高島平型アーバンデザイン・マネジメント」へ

ます。

それから「学」としては、地元で大東文化大学がありますし、私共のように東京大学をはじめ様々な大学も参画できればと思っています。そういった「学」の色々な専門家や学生を、巻き込んで、大学が培った考え方や技術をこの場で展開していければと思いますし、また異なる関係者の方々の意思決定の支援もできればと思っています。

また、「公」の役割は、区あるいは都には、地元自治体としての戦略を立て、色々な事業を編成して頂きたいです。それから、高島平団地を管理している UR 都市機構にも、維持管理だけではなく、魅力向上に向けた共通の課題があるので一緒にまちづくりを進めていければと思っています。

まちというのは、変化していくものです。今回、高島平は建て替えではなく改修ということですが、まちの変化には建て替えや改修

等の短期間の変化があり、中期のサイクルの変化があり、それから大きなサイクルの変化があります。こういったものを組み合わせて、魅力的なまちにしていけるというのが、私は非常に大事だと思っています。

恐らくこれから、色々な施設の建て替えや再利用等という場面に直面してくると思います。色々な改修や、イベントで、道路や公園を利活用することになるかもしれません。そういったものを上手く組み合わせて、「民・学・公」が連携して、高島平のまちを、本当に日本一、住みたいまちと言われるようなまちに、進化させていければと思っています。私も出来る限りのことをさせて頂きますが、何よりも地元の方々のご協力或いは主体的な参画というものが不可欠です。この場をお借りしてお願いし、私の講演の最後の言葉と代えさせて頂きます。

(コーディネーター) 出口 敦 (東京大学大学院教授)



司会：初めにパネリストの皆様をご紹介します。東京農業大学地域環境科学部造園科学科、阿部伸太准教授です。阿部先生は緑地計画、ランドスケープデザイン、景観計画等造園学をベースとした地域づくりや活性化を主な研究、教育テーマとされています。

続きまして、東京大学大学院工学系研究科都市計画専攻、樋野公宏准教授です。樋野先生は居住セキュリティや都市居住、住環境の専門家として多数の研究を手掛けていらっしゃいます。

続きまして、筑波大学システム情報系社会工学域、藤井さやか准教授です。藤井先生は都市計画、まちづくり法制、住環境整備を専門とされ、テーマに基づいた各種研究に取り組んでいらっしゃいます。

最後に大東文化大学環境創造学部、飯塚裕介講師です。飯塚先生は建築計画、都市計画を専門とされ、地元高島平の大東文化大学で災害被害を軽減する防災教育の研究等に取り組まれていらっしゃいます。

それでは早速パネルディスカッションに移ってきたいと思います。出口先生、どうぞよろしくお願いします。

出口：はい。それでは後半を始めさせていただきますと思います。コーディネーターを務めます出口と申します。どうぞよろしくお願いします。

今日は限られた時間ではありますが、4人のそれぞれまちづくりに関連する専門の先生方に登壇して頂きました。それぞれの先生方から、まず最初に5分程度で自己紹介等を兼ねて、現在取り組んでいる研究テーマのご紹介等をして頂いて、それからディスカッションに入っていきたいと思っています。よろしいでしょうか。では、まず阿部先生からお願いします。



阿部 伸太 (東京農業大学)

阿部：東京農業大学の地域環境科学部造園科学科ということで、私は造園学をベースに都市緑地計画学というもの専門にやっています。造園というと多く

の方が、地下足袋を履いて木に登ってという植木屋さんのイメージがあるかと思いますが、最近は都市デザインや国土の環境整備、地球環境の話等多岐にわたってきています。その中で私は都市緑地計画ということで、都市地域の公園や住宅地等の色々な緑のプランニング、計画やデザインといったところを扱っています。

造園科学科というのは1924年にできました。90年余りが経っていますが、1924年というのは関東大震災の翌年です。明治神宮の森をつくったといわれる上原敬二先生が30歳の若さで立ち上げました。東京を復興するためのプロフェッショナルを育てる学校とし

て、東京高等造園学校をスタートして、今は東京農業大学に入っています。

近々の話ですと、3・11の福島で、色々な問題が起りましたが、その中の石川町というところで桜の森をつくりたいというような地元の方のお話があり、プランニングをしました。そしてこの秋に、植え始めました。



高島平とは直接的な繋がりはありませんでしたが、恩師であります進士五十八先生という方からお声掛け頂き、そして関わらせて頂くようになりました。首都高でよく通っていて、非常に森がきれいな沿道景観だなというのが印象的なところでした。どうぞよろしくお願いします。

出口：はい、どうもありがとうございます。

阿部先生には、このUDCTakの専門アドバイザーをお願いすることになっています。これからもプロムナード研究部会等を通じてご参画頂くことになると思います。また後ほど、色々詳しいお話をお伺いできればと思います。

それでは続いて東京大学の樋野先生にお願いしたいと思います。

樋野：私も出口先生と同じく都市計画を専門としていまして、本日よりUDCTakの副センター長を仰せつかっています。

紹介にもありました様に、居住セキュリ



樋野 公宏（東京大学大学院）

ティーというのを専門としており、高齢者の安心、居住支援であるとか、防犯、健康といったことを研究テーマにしています。

少し板橋区との関わりを紹介します。2000年に結婚をし、この近くの蓮根に引っ越して4年ほど住んでいました。

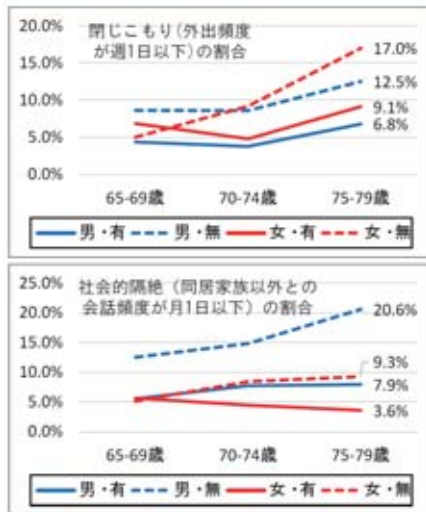
同時に商店街とまちづくり研究会というNPOを立ち上げ、中板橋商店街やハッピーロード大山商店街を拠点に、商店街活性化の研究と実践活動をしていました。当時NPOがかなり数を増やしていた時期で、NPOと行政との協働の在り方の研究会や、2004年頃に住民参加で基本計画を策定するときの委員としても活動していました。現在は、シニアの方々が生きがいを持って社会で活躍できるような板橋区をつくるための委員会が設置され、その委員長を仰せつかっています。

このグラフは、年齢を重ねても元気で暮らして頂くために必要なことについて研究したものです。ここでは予定がないときでも気軽に行けるような場所を「居場所」と呼び、それがあの方とない方とを比べました。年齢を重ねると外出頻度が減る方が多いのですが、居場所のある方は外出頻度の低下が抑えられることが明らかになっています。

下のグラフは、家族以外と会話をしない方の割合を示したものです。特に男性の割合が高くなっています。家族以外とはほとんど会話をしないという方が、年齢を重ねると増えてしまいますが、居場所のある方はしっかりと会話をしています。

つまり、外出頻度、それから家族以外との会話頻度について評価をすると、居場所を

居場所の有無と外出頻度・会話頻度



- 居場所（特に予定の無い時でも気軽に足を運べる場所）の有る人の割合は全体の69.6%
- 居場所の有る人の方が「外出頻度」、「同居家族以外との会話頻度」が高い。
- 男女とも加齢により閉じこもりや社会的隔絶の割合が高まるが、居場所の有る人は男女ともその傾向が抑えられる。
- 閉じこもりは女性、社会的隔絶は男性でこの傾向が顕著。
- 居場所が無いと閉じこもりの可能性が1.76倍、社会的隔絶の可能性が2.09倍（性・年齢の影響を調整したMantel-Haenszelの検定）

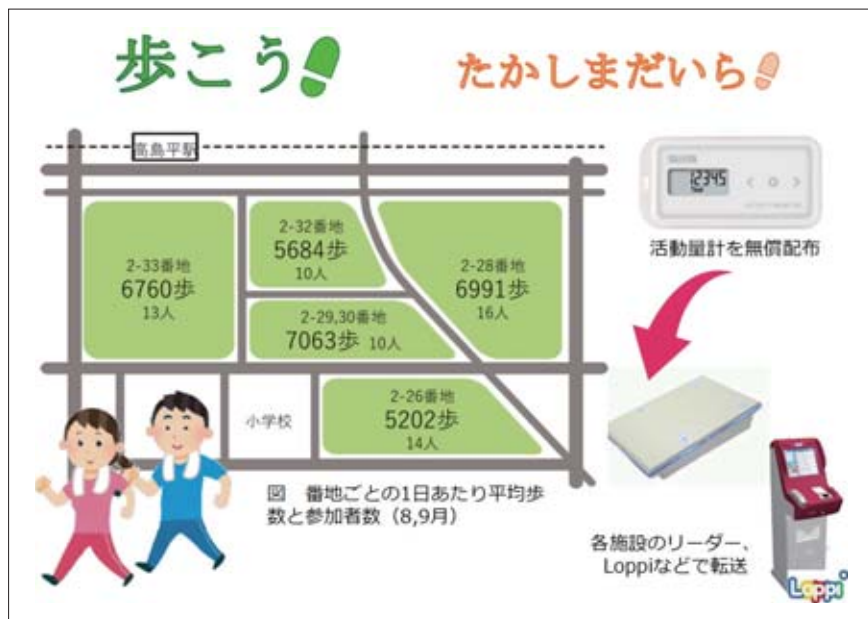
持つて頂くことが非常に大事だということが分かります。UDCTakでも、シニアの方を含め、誰もが居場所を持てるような街を目指したいと考えています。

高島平との関わりとしては、現在、UR 高島平団地で花壇づくりの支援をしています。基本的に UR 団地においては造園業者が花を植えたり植栽の手入れをしたりしていますが、全国の団地で実験的に「共同花壇」という、住民の方が関与しながら花を育てる取り組みが進められています。高島平団地もそうした団地の一つで、我々が支援をしています。

なぜ支援をするかということ、ひとつの花壇を巡っても、「こんな花壇にしたい」と思う人もいれば、「いや、私はこういう花壇にしたい」という、色々な思いの違いがあります。そうした方々を調整しながら、あるいは専門的な知識を身につけてもらうために、専門家を派遣したり、作業をサポートしたりしながら、3カ所で花壇づくりをやっています。まだ始めて1年ぐらいですが、URのコンクールでも優秀作品賞を頂く等、さらにモチベーションが上がっているところです。これも私は居場所の一つだと思っています。

花壇づくり “共同花壇コンクール” 優秀作品賞受賞





次は、やはり UR 高島平団地の方々に、もっと歩いてもらうための支援です。

先ほど外出が大事だという話をしましたが、外出して頂くために、活動量計を無償で配布するという事業を行っています。活動量計を持った方々は、地域の UR や区の施設でその情報を転送します。そうすると、ウェブで日々の歩数を見られます。我々大学側からも、今月はこんなに歩きましたよというレポートを送っています。

この地図は番地別に歩数を集計したものです。番地別に競って頂くと、より歩くモチベーションになるのではないかとということで、集計をして、参加者の方に提示しています。

取りあえずはここまでです。私が今、高島平でどういうことをやっているかお話をしました。

出口: はい、ありがとうございます。板橋区の住民としても、あるいは専門家としても、高島平に関わって頂いているということです。先ほどご本人からもお話がありましたが、この度の UDCTak の副センター長を樋野先生にお願いすることになっています。それでは、筑波大学の藤井先生にお願いしたいと思います。



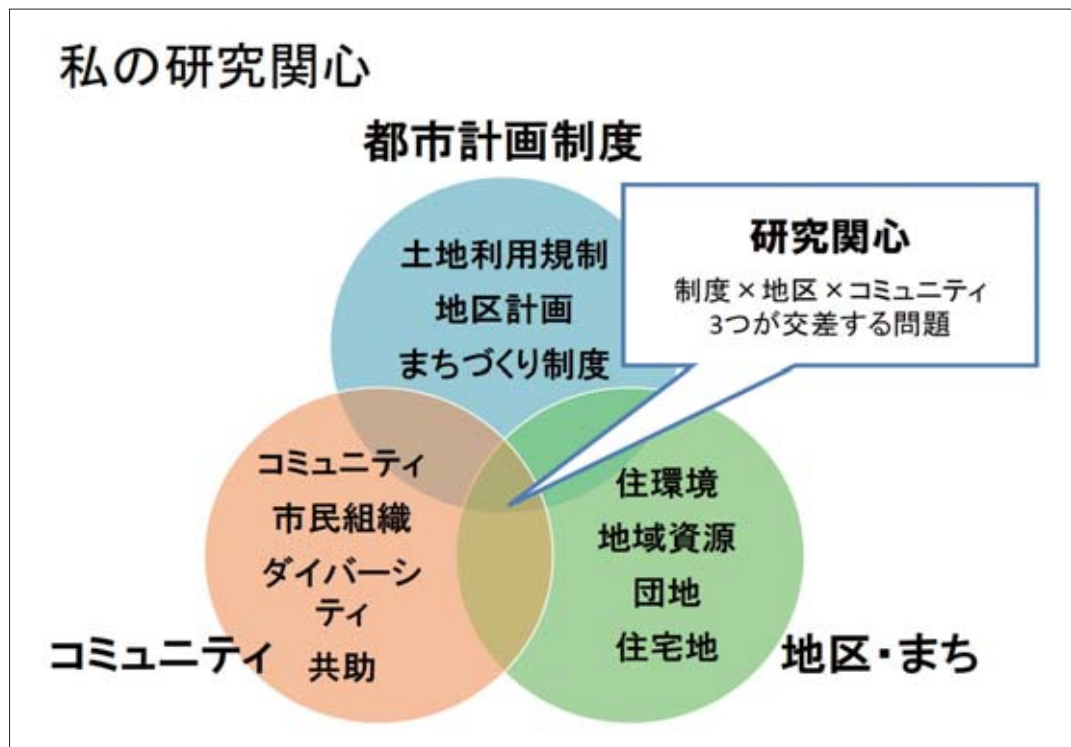
藤井 さやか (筑波大学)

藤井: 筑波大学の藤井です。よろしくお願いします。UDCTak で高島平の地域力がぐんぐん上がるというタイトルを付けさせて頂きました。

私は都市計画が専門ですが、特に地域の方とどのようにまちづくりを、都市計画と絡めてやっていくかというところを専門にしています。都市計画の制度だけでは良いまちはできません。実際にある団地や住宅地、商店街といった場所には、その場所の資源が豊富にあります。それを使っていこうという人がいなければ、なかなか良いまちになりません。

まちづくりでは、人というのが非常に大事だと思います。私の研究関心は、都市計画の仕組みと、場所の資源、そして人がうまく絡み合ったところ、3つが重なるところを対象としています。

例えば先ほど樋野先生から、高島平での花壇づくり等のお話がありました。私も活動に参加させて頂いていますが、高齢の人が増えてきている中でも、安心して楽しく趣味を続



けられるには、どのようなことができるだろうといった連携のあり方や、地域の方が大事にしたいと思っているまちがきちんと守られるようにするには、都市計画の枠組みの中でどのようなルールを地域につくれるか、どのような取り組みをすればそれが実現するのかという点も研究関心です。

それから、誰もが活躍できる地域づくりということも、最近はテーマとして関心を持っています。高島平よりもずっと郊外で人口が減少しているようなところでも色々な人達が活躍できる場所をつくって地域を元気にしていく。それから都市計画の事業でよくあるのですが、ただ単に工事をするだけではなく、そこにどれだけ地域の人を巻き込んで、ソフトの面でも地域が元気になるにはどうすればいいのかということに関心を持っています。具体的にはまた後ほど、その辺りもご紹介したいと思います。

私と高島平の関わりを少しご紹介すると、私自身は UDCTak そのものには関連はしていませんが、板橋区の都市計画に関わる色々な

委員会に参加させて頂いています。進行中のものとしてはマスタープランの策定や、もうすぐ始まる緑の基本計画の策定や空き家問題の委員会にも参加させて頂いています。

高島平では、この団地を中心に、先ほど樋野先生がご紹介されていた共同研究に参加させて頂いていますし、その関連で、今、卒業論文に取り組んでいる学生が高島平団地にお邪魔をして研究をさせて頂く等、色々な形で関わらせて頂いています。私からは以上です。

出口：ありがとうございました。都市計画の専門家として、板橋区の様々な計画づくりや法制度の検討等に関わってこられたということです。法律や制度だけでは、実際なかなかいいまちはできないので、さらに別の観点からも色々研究やアプローチをしていこうとされています。また後ほど、色々とお得られた知見等もお話し頂ければと思います。それでは続いて大東文化大学の飯塚先生にお願いしたいと思います。



飯塚 裕介（大東文化大学）

飯塚：専門は、建築学をベースに防災教育や都市解析学等を研究しています。

私の研究テーマは大きく 3つの分野に分かれます。まず1つは防

災教育分野で、今は企業との産学連携共同研究という形で、防災教育用のボードゲームを開発しています。粗方完成し、中学校や高校での実証実験を始めているところです。来週には赤塚三中さんで実証実験をさせて頂くほか、高校等でも実証実験をして、将来は商品化できればと思っています。また、防災教育用のスマホ等のアプリケーションで、バーチャルリアリティを活用したようなものもつくれないかということで、今プロジェクトを進めています。今のところは高島平での実証実験等はありませんが、防災ゲームを使った防災教育は、高島平での地域活動にも活かせるところがあると思っています。



対戦型災害サバイバルゲーム “TENPEN”

2つ目の研究分野として都市解析分野の研究をしています。高島平に関わる場所では、高島平新聞社さんに「高島平便利帳」の過去の全てのデータをお借りして、それを基に商業施設や医療機関等の時空間分布を調べ、昔

はどの辺りにどういうお店があって、病院はどこにあったか、それが今はどういうふうに変化したかということ进行分析をしています。また、大学のキャンパスが移転や撤退をすると、その前後で周辺の市街地にどのような変化が起きるのかをデータ分析で明らかにするような研究も進めています。

それから3つ目の研究分野として建築計画分野の研究をしています。建物内には、火災等災害が起きたときに安全に避難できるよう、避難誘導灯のような避難誘導サインが設置されていますが、目が見えない状態ですと役に立ちません。これをユニバーサルデザインにできないだろうかと考えて、手触りの異方性触感に着目した新たな手法を開発して、特許申請をしつつ実証実験を進めています。また、大学内での災害時避難の問題点をコンピューターシミュレーションで検証するような研究もやっております。



高島平との関わりとしては、まず職場の大東文化大学が高島平1丁目にあるという点が挙げられます。授業では高島平を対象としたフィールドワークの授業を担当していて、今年も既に4回フィールドワークをしています。また、ゼミ教育の一環として、高島平で

開催されている防災訓練に参加させて頂いています。

大学外の活動としては、団地内の地域交流広場ぱうぜというところでハザードマップを読み解く公開セミナー（全４回）を開催したり、住民と学生を対象とした防災ワークショップを開催したり、高島平地域創造会議という会で地域課題について考えたり、フォーラムを企画したりしています。それから「高島平ジャーナル」という高島平にフォーカスを当てたジャーナルを年２回発行しています。長くなりましたが以上です。

出口：はい、どうもありがとうございます。飯塚先生にも、この UDCTak のディレクターをお願いしていますので、地元大学の先生として、また防災避難等を中心とした都市計画、まちづくりの専門家として、ぜひこれからも関わって頂くことになるかと思います。また後ほど、色々ご意見を伺いたいと思います。

今、４人の先生方に自己紹介を兼ねて研究テーマをお話しして頂きました。恐らく皆様が、この高島平を意識しながらご自身の研究テーマを紹介して頂いたかと思います。いずれのテーマもこの高島平にとっては非常に重要な側面、観点かと思います。

それではまた先生方からご発言頂き、それを基に意見交換等ができればと思います。高島平では平成 27 年に高島平地域ブランドデザインというものを策定しています。その中にこの地区の課題や、今後の進むべき方向性といったものも整理されています。そういったものも踏まえながら、ご自身のご専門の観点から、この高島平の強みや弱み、或いはまちづくりの課題といったものをお話し頂ければと思います。

今日はなにぶん UDCTak を設立して最初のイベントということで、一足飛びに色々なことを議論する前に、まずこの地域が抱えている課題を専門家の方々から見てご指摘頂き、それを今後の活動の参考にさせて頂こうかと思っています。

それでは、よろしいでしょうか。では阿部先生のほうから、また順番にお願いします。先ほどはランドスケープの観点からこのプロムナード、緑地帯のことについてもお話を頂きましたが、ぜひこの高島平のまちづくりの課題や、あるいはその課題解決に向けての何か参考になるようなアドバイス等がありましたらお願いしたいと思います。よろしくお願いします。



高島平の強みと弱み、地区の課題等

阿部：高島平では、今回のプロムナードの整備に絡む委員会に関わらせて頂いていますが、実は昔、小茂根の病院にお世話になったことがあります。仕事では車で移動することが多く、首都高速等を結構走っています。その折に見ていると、ちょうど高島平のインターの辺りは本当に森になっており、非常にいいなという印象です。

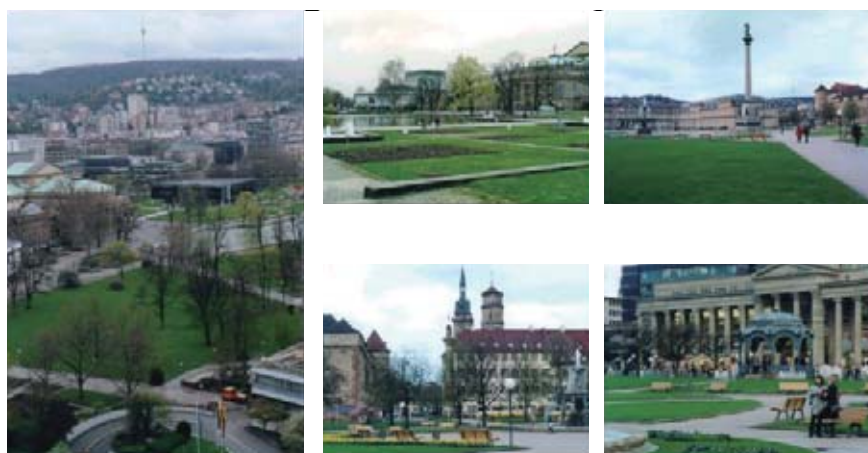
ただ、高島平というと、多くの方は団地というイメージのほうが強いのではないのでしょうか。けれども、あのインター付近の印象を見ると、人との関わりである森といったものを大切にしていくことが、やはりこれからの高島平にとっては大事なのではないかという気がしました。

今回の委員会を通じて駅前のプロムナードの辺りに行ってみると、色々とお祭りが行わ

れているにも関わらず、何か閑散としているのがもったいないという印象で見えていました。そこで、この樹林を楽しむということ、樹林で楽しむというところが足りない部分ではないかと思います。

この樹林を楽しむということでは、樹林自体をもっとつくっていく、それから並木道のようなところのつくり方を少しこれから考えていくといいのではないかという印象です。

これはドイツのシュツットガルトのまちです。以前、「風の道」という都市コンセプトが日本でも流行りましたが、街の中心部をこういった形で緑のラインが通っています。ここを風が通ることによって大気を浄化させるということをしています。こういった重厚な緑の帯があるという意味では、高島平も非常にシュツットガルトに近いものがあります。これをいかに使っていくのかというところがポイントかと思います。





並木道という意味では、日本の並木道の場合は単なる自然樹形が非常に多いのですが、パリのシャンゼリゼでは整形なデザインの街路樹が車道側、内側はこういう自然樹形ですが、こういった面白さがあります。パレ・ロワイヤルというルーブル美術館のすぐ北側のところも、こういう風な切り方をしているところが一つの絵になっています。これはルクセンブルグ庭園です。ここも何層にもなっていて、それぞれ切り方が違っているという面白さです。そういう並木道の楽しみ方があります。

これは私が1年間いました、フランス北部のボーヴェ（Beauvais）という街にあった街角広場です。このような面白い切り方をしています。細いところからアイスクャンディーやキュービクのような樹形になっていたりします。こういう楽しみ方が一つあるのでは

ないかという気がしました。

それから、管理していくところを見せると面白さもあります。これはエッフェル塔の下のシャン・ド・マルス公園で、このようなダイナミックな切り方をしているのも、見方によっては面白いと思います。ですから、こういったものを見せていくとか。これは農大の中庭でやった空師（そらし）による伐採です。要するに根元から一気に倒すことができないので、上から徐々に切っていくという技術です。ですから管理するところもを見せていくという、そういう面白さを見せるのもあるのではないかという気がしました。

次に、森で楽しむライフスタイルです。こういう広場をつくって、それで楽しみます。これはパリのチュイルリー庭園です。これはパリのラ・ビレット公園で、森の中にこうい



うベンチを置いています。高島平のプロムナードの中にも、こういうものがあるといいのかなという気がしました。

それから、そういったところに飲食施設を置いたり物販をしたりということもあり得るだろうと思います。これは広尾にある 1 本の樹木を生かしたもので、下は園芸屋さんで上はカフェなのですが、こういうものがプロム

ナードに隣接したり、中にあったりするのもあり得るのではないかと思います。もし施設系が無理であれば、これはちょうど今の季節のシャンゼリゼですが、出店や場合によってはケータリングカーを置きながら、そしてそこを使う楽しみを考えていくという、このようなところがこれからのプロムナードの考え方の一つの事例としてあるのではないかと印





象を持って見させて頂きました。

出口：どうもありがとうございます。基本的なことなのですが、我々は「もり」というと木を 3 本書いた「森」の字を使います。ランドスケープの方はよく木偏に土の「杜」を使われます。今の先生のスライドもそうでしたが、これは何か特別な意味や思いを込めていらっしゃるのですか。

阿部：そうですね。同じ「もりの都」でも仙台はこちらの杜を使い、熊本は 3 本の森です。ですから、人の手が加わって、人の暮らしの中に密着している杜は、土を入れているというような言い方をよくしています。武家屋敷がある等、そういうような意味合いです。

出口：そうすると高島平のプロムナードは、むしろこの「杜」の字を使ったほうが？

阿部：考え方として、これからはそうしたらどうでしょうということなのです。

出口：はい、ありがとうございます。幾つも今、示唆を頂いたと思います。特にこの木偏に土の杜を楽しむことです。スライドでは楽しむという字も音楽の「楽」ではなく愉快の「愉」を使われていましたが、恐らくこれも先生なりの思い入れやお考えがあるかと思います。

高島平は、北側と南側に大変豊かな緑を持っています。北側のプロムナードは木偏に土の

人工的な「杜」で、南側は自然をうまく生かした「森」ですが、こういったものをある意味、自然のまま野放しにせずに、むしろやはりきちんとデザインしていきます。

それにはプロの方々の色々なご協力が必要だと思いますが、住民参加でデザインをしていくと、恐らく新しい景観をつくり出すことができます。それによって、冒頭でおっしゃっていた高島平の団地としてのイメージ、高層住宅が建ち並んでいる団地としてのイメージを、むしろ緑のイメージに転換していくことが、地域のブランドづくりには大切ではないかというご指摘を頂いたのかと思います。

それから、ベンチ等の家具、ファニチャーを置くということも、先ほど外国の例でありましたけれども、プロムナードはそういう利活用をもう少し考えてもいいかもしれません。住民の方々にもそういったアイデアをお持ちの方はいらっしゃると思います。また後ほど何か補足して頂ければと思います。

それでは続いて、樋野先生お願いします。

樋野：私が高島平で行っていることを更にご紹介します。

高島平には空間資源や人的資源を始めとして様々な地域資源があるので、それらを

生かしたお散歩マップを、大学の演習で学生と一緒に作りました。騒音調査等様々な調査を通じて、住民の方の話も聞きながら作ったものです。

それから、今年の2月にコリア大学から学生が来られて東大の学生と交流をしました。短期間ですが、高島平を対象に、プロムナードをどうしたらいいかという集中ワークショップを行い、様々な提案が出てきました。

それを発展させたのが、今年度の大学4年生の演習です。プロムナードに対する具体的な提案を、本当に自由に考えさせています。

プロムナードの西台駅に近い部分と、旧高七小に近い部分について、特に力を入れて様々な提案をしています。

上の模型を紹介します。西台の駅から西に歩くとプロムナードが始まりますが、この案ではそこまで商店街を延ばしていきます。緑地は木の量をやや抑える形にしてオープンカフェを設けます。緑を楽しみながらコーヒーを飲めるような空間をつくり、その前で子どもたちを遊ばせるのはどうだろう、という提案です。今後もこうして学生と一緒に考えていきたいと思っています。



高島平の強みと弱み

強み

- 緑豊かなオープンスペース
- 都心までの交通利便性の高さ
- 医療、福祉施設の充実



弱み

- イメージ

グランドデザインは策定されたが・・・
他地区とどう差別化するか？
ターゲティング層は？

強みと弱みというのが今回のセカンドステージのテーマですが、緑豊かなオープンスペースがあって、都心の大手町まで 30 分という便利さで、それから医療施設や福祉施設も充実しているというのは強みです。

そして弱みは、あえて言うならば「イメージ」だと思います。

マスコミ等を見ますと、高島平団地の紹介をする際に、高齢の女性が 1 人だけで手押し車を押している後ろ姿を撮ったような、閑散とした映像が出されます。しかし、そんな時間帯等本当にわずかです。そうした映像が高島平のイメージを下げていると思います。

そのイメージを払拭していくためには、非常に多様な、数多くの地域活動が行われていますので、それによるにぎわいの様子をもっとアピールしていくべきだと思います。

私は、高島平の最大の強みは人的資源だと思っています。新しいまちでなく既存のまちであるということは、これまで地域を支えてきた方々、特にシニアの方々が数多くいらっしゃるということです。高齢化はネガティブに語られることも多いのですが、多くのシニアは非常に元気です。そうした方々に活躍してもらえるようなまちにしていきたいと思います。

えています。

グランドデザインを見ると、他の地区とどう差別化していくか、ターゲット層をどうしていくかもう少し明確にしていける必要があると思います。

グランドデザインの目指すべき方向性としては正しいと思いますし、若者も子育て世代にもシニアにも住みやすいというのは理想的ではあります。しかし、人を集めようと思うと、もう少しターゲットを具体化していかなければ、都市戦略としては難しいのではないかと考えます。

そこで極端な例をご紹介します。この写真はフロリダの CCRC (Continuing Care Retirement Community の略。自立期からケアが必要な要介護期まで連続的にサポートとケアを受けられる高齢者のための住宅地) と呼ばれるシニアのまちです。高齢化率 100% ですが、非常に皆様お元気で、楽しく暮らしています。この CCRC は単なる高齢者施設ではなく、シニアの方々が自ら地域活動をし、運営にも関わりつつ、住みよい住環境をつくる住宅地です。

多くの人は一戸建て住宅から移ってきますので、まずエリア内の一戸建てに入り、身体



機能が少し衰えると集合住宅に入り、そこでケアを受けながら終の棲家にできる、という場所です。視察してみて、居住者の非常に生き生きとしている姿が印象的でした。高齢化率が上がることがマイナス要素として語られますが、この地域では高齢化率 100%でありながら、皆様が本当に生活を楽しんでいらっしゃることが印象的でした。

この写真は日本版 CCRC と呼ばれる「ゆいまーる那須」です。ここも地域との関わりを持ちながら、シニアの方々が様々な形で活動、活躍をされているところです。

繰り返しになりますが、一般的に高齢者という言葉からイメージする要支援や要介護という方は、数でいうとわずかです。特に 65 歳から 74 歳の前期高齢者の中で、支援が必要な方は少数です。ですから、元気なシニアの方々が地域活動ができるような、積極的に活躍できるようなまちづくりが大切です。高齢化は全く弱みではなく、むしろ地域に関心を持つ人が多いということです。それが高島平の強みではないかと考えています。

出口：はい、どうもありがとうございます。副センター長を務めて頂きますが、樋野先

生の頭の中には、もうすでに明確な課題意識があるということがよく分かりました。

弱みとしては、むしろマスコミがつくり上げたイメージと言われていました。実際に私も何度かこの高島平に来ていますが、非常に活発に音楽会をされていたり、スポーツのイベントをされていたり、本当にいつも活気がある印象です。

やはり外部に発信するイメージが、私は非常に重要だと思います。今はこういうインターネット等で色々な情報発信が自らできる時代ですので、ぜひ UDCTak がそういうチャンネルになりながら、地域の本当の姿を外部に発信していき、生き生きとしたまちであるということをアピールしていく必要があるのかなと思っています。そのためにも UDCTak を使って頂ければということでしょうか。

それから高齢化社会については、高島平もそうですし、全国でも課題だと言っていますが、よく考えてみると、長生きするというのは、人類がこれまで望んできたことです。ですから、健康で長生きすることは、ある意味、非常に素晴らしいことだと思います。海外の事例と国内の一部の事例を紹介して頂きましたが、元気な高齢者の方々が活躍できるまちになっていくということが実はまだまだ少なく、高島平がそういうモデルになっていければということを示して頂いたのかと思います。

そのためには、冒頭で居場所づくりとおっしゃって、2 丁目団地で花壇をつくっている事例を紹介していましたが、こういう取り組みをずっと続けて、重ねていくことでしょうか。それとも、UDCTak ができて、もし何か新しくこういうことをやってみたいというのがあれば、補足して頂ければと思うのですが、いかがでしょうか。

樋野：はい。まず花壇活動については、今は 2

丁目だけの取り組みですので、これを高島平全域に広げていくというのが一つの目標です。

出口：全域に拡張していくということですか。

樋野：はい。UDCTak においては、そうした新規の活動をつくり出すことももちろん重要なのですが、高島平地域にはすでに多数の地域活動がありますので、それらを結び付け、より発展させていくことに注力する方向もあると考えています。

出口：花壇づくり以外にも色々なまちづくり活動をされている団体がありますので、そういった活動と活動をうまくつないで相乗効果を生み出すことができないかということでしょうか。私も今、具体的にはなかなか事例を思い付きませんが、例えばまち歩きを楽しんだり、あるいは写真を撮ったりするようなクラブ活動をやっている方がいらっしゃるかもしれません。そういった方々の活動が花壇づくりとうまくつながっていくと、それに基づいてまた外部に対しての新しい発信にもつながっていくかと思います。

それでは 3 番手として藤井先生に、またこの高島平を対象にした藤井先生なりの見方をご紹介頂ければと思います。よろしくお願いします。

藤井：はい。では、まずは強みと弱みということで整理をしてみました。高島平団地が中心ですが、学生と一緒に何度も地域を訪れてお話を伺っていて、私が感じた強みと弱みということで挙げさせて頂きたいと思います。

まず、高島平は非常にバランスの取れた空間だと私は思っています。都市的なところもあれば、緑も非常に豊かで、その両方が凝縮されて入っているというのは、東京ではなかなか貴重な場所だと思っています。また、大きな街区でつくられているところではありますが、密度が高く、その分、色々な活動が常

に数多くあり、選択肢が多いということも、実は大きな強みではないかと思っています。何かをやりたいと思ったときに、色々な種類の活動が高島平にはあります。例えば食事をするにしても、お弁当を取るにしても多彩な選択肢があるということです。非常に高密度だからこそ、民間のサービスも含めて、様々な種類が提供されていることが、高島平の特徴ではないかと思ひますし、非常に利便性が高いところも大きな強みだと思ひます。

ただ、それが裏を返すと弱みにもなっています。街区形成が大街区であるのは、歩いて過ごせる範囲や日常的に顔を合わせる範囲が少し掴みにくくなります。また、実際には多くの方がいらっしゃるのですが、やはり大きな街区なので、他のコンパクトなスケールのまちと比べると、人通りが少ない空間ができやすくなります。

それから選択肢が多かったり利便性が高いことは、住んでいる人が困らないということにつながります。ちょっとした困り事はあるとは思ひますが、本当に深刻に悩むことが少ないことが、逆に実は弱みなのかもしれません。本当に解決しなければと、地域の皆さんと一緒になつて思ふと、それが核となり、大きく何かを変える動きの原動力になります。しかし、そこまで困っていないと、わざわざ今の環境を変えようとは思ひづらくなります。そのことが、今後、大きなことをしたいときに、「いや、でも今、誰も困ってないよ」というところで、地域を動かすににくいという弱点になるのかもしれません。

両方を踏まえた課題として挙げると、歩ける範囲というスケール感が少し弱いのではないかと思ひます。そして、そういう目で見ると、良いスペースが意外と数多くあるのに使われていません。先ほどのプロムナード等も

そうですが、ここに気軽に集まれる空間があればいいのにというところが極めて多くあると思ひます。

また高島平では、すでに色々な活動が行われており、人が貴重な資源だと思ひます。けれども、色々な活動でお会ひする方が実は毎回同じであつたり、非常にエネルギッシュな方は数多くいるけれども、一部の方にばかり負担が偏つてはいないだろうかという懸念があります。それが、長い目で、或いはもっと広げていくという目で見たとときには、課題として挙げておく方がよいかなと思ひました。

参考事例としてカナダのトロントに 1 年間ほど研究滞在をしたときに調べた事例を紹介します。

高島平の団地に非常によく似た規模の団地の事例です。そこでも高島平と同じように、外回りがただ駐車場になつていたり、広い空間があるのに誰もいなくなつたりということが問題になつていて、そこを変えようという動きがあります。屋外にベンチを置こうという提案や、あるいは、駐車場の空きスペースにお店をつくれるようにしませんかという提案が地域から出てきて、それを大学と NPO とトロント市役所が協力して、実現に向けた環境づくりを進めています。

色々なスペースを使って、共同花壇やお店もつくつてしまおうという提案が出ていますが、そのためには、都市計画の規制が制約になりましたが、市役所も巻き込んで、ルールの緩和を検討しています。本当に地域に必要な施設であれば、規制を見直しながら、スペースを活用できる動きがあると思ひますし、もしかすると UDCTak のようなところが提案していくと良いかもしれません。

実際に利用方法を転換した場所では、従前が人気のなかつた所が、この様に人が集まる

場所になったり、色々な人達が一緒に作業をする場所になったりしています。それを繰り返していくと、顔を合わせる頻度が増えてきて、いつも同じ人ではなく、更に新しい人も参加し、地域での活動等が増えて、地域の力も上がっていきます。ですから、高島平にも数多くある未活用のもったいないスペースをもっと使っていけるといいなと思いました。

もう一つ、トロントの別の団地の取り組みです。直訳すると生涯学習センターですが、UDC に非常に近い組織で、団地を再生するために新しくできたセンターがあります。英語だと Center for Community Learning and Development で、コミュニティの学習と能力開発のためのセンターです。

そこで何をしているかということ、地域で何かをしたいが何をすればいいかわからない、どうやっていいかわからないという人達が、まずは集まり、簡単なことからでもいいから少し勉強をしてみて、地域で活躍できるスキルを身に付けたり、どんなことが必要とされているのかを話し合う中で、自分はこれならできるということを育てていきます。そんなセンターです。

語学から始まって、コンピューターの使い方等を学びます。コンピューターが使えるようになると、ポスターをはじめ、「皆さん集まりませんか」というような資料が自分で作れるようになり、それで人が集めやすくなります。簡単なことだけれども実はネックだったということや、自分で起業やグループづくりがやりたくても法律が分からない、お金の集め方が分からないといったことをセミナーで学び、そこから第一歩を踏み出すことができる等、その様なことをセンターでやっています。

そのセンターが面白い取り組みをしています。日本とカナダは少し違って、カナダのまちの場合は色々な国の人が集まって住んでいます。そうした人達の中でも、お母さんや専業主婦の方々は、なかなか社会に出ていく機会がありません。彼女達は家で毎日、自分の国の料理を作っています。非常においしく、外のレストランに行けば、エスニック料理として非常に高い値段で出されているようなメニューです。彼女達が日常的に作っているエスニック料理を仕事にしたいということで、彼女達が食品衛生管理の資格を取れる

参考事例:カナダトロント市の団地再生

①タワー・リニューアル制度による再生

大街区・高層棟で構成された団地の再生プロジェクト

- 大きな空地の50%が駐車場
- 楽しくない歩行環境
- アクセスの非連続性



参考事例:カナダトロント市の団地再生

①タワー・リニューアル制度による再生



よう、センターが講座を提供しました。大学や市役所、保健所等色々な組織が関わって、資格取得が可能になりました。

資格が取れると、今度はセンターが注文を取りまとめ、今日はアジアの人達に、今日は中近東の人達にという形で注文を出していき、そういうエスニック料理をケータリングやお弁当等として外に提供できるようになりました。それがささやかでも収入になっていくような、そんな動きが広がっています。今、1食だと日本円にして1,000円、2,000円かかるので、結構なお金が動くようになりました。

もし高島平でお料理が得意な方がこういうことを始められたら、お弁当やお昼ご飯を提供できるようなところが増えてくるかもしれません。このように、皆さんが日常的にやっていることを社会のために仕事として生かせるようになる、その様なきっかけづくりがあると、活動がボランティアベースばかりではなく、ビジネスとなり、長く続けていける大事な第一歩になるのかなと思います。

カナダのそのセンターでは最近、料理と同様に、手芸や工芸等もビジネス化しようと頑張っています。私も子どもがいて、かつて保

参考事例:カナダトロント市の団地再生

②生涯学習センターによる学習・能力開発プログラム

ケータリングビジネスの創出

- 国際色豊かな専業主婦の強みを活かしたケータリングビジネスを開始
- トロント市衛生局・大学が調理や栄養、食品衛生に関する講座を提供、修了者に食品衛生責任者の資格を与える
- CCL&Dが注文をまとめ登録者に発注
- 2014年25名登録、12000食を提供



・お弁当・昼食などの提供できるかも！？



職能向上のための講座

- 語学、コンピューター、法律、アート、起業セミナーなど
- 大学の生涯学習講座との連携や資格取得と連携した講座
- 担い手育成:ポスター作成、案内文の作り方なども！

手芸・工芸ビジネス

- 世界各国の手芸・工芸を小物制作に活かし、商品化
- 保育園バッグなどの作成できるかも！？



育園準備に必要なものが非常に多くあり、しかもサイズが決まっているため既製品では間に合いません。私は全然時間がなく対応できなかった時に、近所の手芸が得意な方をお願いできればと何度も思いました。そうしたことも、本当はつなげるだけで仕事になったり、それがきっかけで地域の新しい動きになったりするのではないかと思います。

私は元々都市計画が専門で、空間を皆でつくって活用していくというところが非常に大事だとは思っていますが、それに加えて、人が生き生きと過ごせる仕組みも必要だと思います。先ほど居場所というお話がありましたが、居場所というのは物理的に行きたくなる場所だけではなく、自分が地域で役に立っているという実感が得られることも、大事な居場所の要素だと思います。その様なところにもつながっていくと高島平のコミュニティの層が次第に厚くなり、大きく育っていくと思いました。

出口：色々貴重なご意見をありがとうございます。今日、登壇して頂いた中では唯一の女性の先生です。

女性或いは主婦の観点から見たときにはどうでしょうか。先ほどお料理の話を少しされていましたが、むしろ女性の観点から見たときの、この高島平の課題や、いろいろな可能性というのを、また少し補足して頂ければと思います。

藤井：そうですね、むしろ女性の方が課題は少ないと思っています。割と女性のご近所付き合いをよくしていて、地域の活動をよく分かっていますし、集まりましようといったときに集まりやすいのも、女性だと思います。こういうところに、いかに男性にも来て頂くかが、むしろ難しいのかなと思います。

出口：はい。多分、皆様はご自身のご体験で

もお分かりかと思います。確かに男性は職場を通じて社会とずっとつながってきた人達が多く、その職場との関係がなくなってしまうと社会との接点もなくなってしまうがちなと言われます。むしろ女性の方々、主婦の方々がご主人を積極的に引き出していくような、そんな取り組みができればということですね。ありがとうございます。

それでは飯塚先生、この地域に対してのサジェスチョン等も含めてお願いできればと思います。

飯塚：はい。まず高島平地域の強みですが、4点あると思います。まず1つは、すでに活発な地域活動がされている、しかもそれが40年に渡ってされてきているという歴史があることが大きな強みだろうと思います。この写真は区のホームページから拝借してきましたが、そういう歴史と、それからその活動をされている人がいるということが、大きな強みだと思います。



それから2点目は、地域の中に大東文化大学という大学があることです。

大東文化大学には板橋・東松山・信濃町の3つキャンパスがありますが、この内の板橋キャンパスには5000名の学生と様々な分野の専門家が通学・通勤しています。この多くの学生と専門家たちをうまく活かすことができれば地域の大きな強みになるだろうと思い

ます。これまでも高島平と大東文化大学は色々お付き合いをさせて頂いていますが、これからもこの強みを活かしていけるといいなと思っています。



それから3点目は、多様な要素が共存している地域であるということです。高島平地域というどうしても団地ばかりに目が行ってしましますが、今回のグランドデザインでも団地のある2丁目、3丁目だけではなく、1丁目から9丁目までが対象範囲となっています。この1丁目から9丁目を見ますと、低層の住宅が広がっている1丁目や4丁目、5丁目、或いは商店街やマンションが多く建っている7丁目、8丁目、それから倉庫や工場等がある準工業地域を含む6丁目、9丁目というように多様な地域が共存した状態になっています。それぞれの地域で成り立ちも違うし、抱えている問題や、強みも弱みも違うだろうと思います。この一様ではないということが、逆にお互いを補い合える可能性を秘めている



のではないかと思います。それを私はポジティブに捉えて、高島平地域の強みと考えていると思っています。

4点目は高島平を語るときにいつも言われることですが、都心へのアクセスが良いという点です。三田線で都心から30分という立地は通勤・通学に便利というだけでなく、地域の魅力をうまくアピールできれば、外から人に来てもらえるまちになる可能性を秘めていて、地域の強みとして活かしていきたいと思っています。

一方で弱みなのですが、私は3点ほど考えてきました。まず1点目は、居場所の問題です。子育て世代や若者、高齢者も含めた世代が集まりたくなるような場所、居場所が、もう少しあっていいかと思いました。それが一つの弱みかなと思っています。

この背景に、「武蔵野プレイス」という、武蔵野市にある図書館や生涯学習施設の複合施設があります。まさに子育て世代や若者、高齢者を含めた全世代が集まりたくなるような居場所を目指してつくられた施設で、できて5～6年たっていますが、とても好評だという話を伺っています。

このように皆が集まれる居場所があればいいのではないかと思います。



それから、この高島平地域だけではなく、もう少し板橋区のこの辺りを広域で見てもそ

うなのですが、芸術、文化に市民が触れられる場所が、もう少しあっていいのではないかなと。更に言えば、新しい文化や芸術を創造、発信するようなものがあっていいのではないかと思います。

これはキプロスにこういう野外劇場があるのですが、今でも近隣の方が様々な活動に活用されている、そんな場所だそうです。屋外の劇場である必要はないと思いますが、何か文化、芸術に触れられる場所があると、地域の魅力、それから先ほど出ていたイメージの向上にも役立つのではないかと、ということで、こういうものがないのは弱みなのかなと思いました。



それから 3 点目は防災の観点でいうと、高島平地域は比較的低地にあり、北側の荒川や新河岸川の堤防の破堤や、それから内水氾濫のリスクがどうしてもあります。

これは 200 年に 1 度レベルの洪水を想定したときに、どの範囲がどれくらい浸水するかを示した図ですが、これを見ると、高島平地域は 5 メートルぐらいの浸水が想定されています。

5 メートルというと 2 階にいても水浸しになってしまうということで、1・2 階建ての戸建住戸の方は他の場所に避難する必要がありますし、中高層の方も 3 階以上まで上がらないといけないということになります。

発生の頻度は低いと言っても、このような災害が今年、来年に来てもおかしくないので、地域全体でそれを意識しながら、まちづくりを進めていく必要があると思います。今、この部分は必ずしも十分ではないように感じますので、地域の弱みと言ってもいいのではないかと思います。



出口：ありがとうございました。日常のまちづくり活動の中で、やはり防災や防犯というものの位置付けをもう少し皆様で意識しながら、そういう活動に取り組んでいくことが重要だと思います。ぜひ UDCTak の取り組みの中にも、防災や防犯をキーワードにした取り組みを組み込んでいければと思います。

それから居場所の話ですが、冒頭、阿部先生からランドスケープの観点で、特に人が樹木に手を加えることによって新しい景観をつくり出すという話が指摘されていましたが、もう少しそれを居場所に転換していくというか、専門家だけではなく住民の人たちもプロムナードの整備や保全に関わっていく可能性というのは、どうなのでしょう。その辺りを補足して頂ければと思います。

また、藤井先生が、先ほどの海外の例で、団地の足元をもう少し豊かに緑化するような例を挙げていました。これもまた、UR さんが管理されている場所をそういうふうに住民や外部の人が手を加えるというのは非常に難

しい問題があるとは思いますが、その辺りのアイデア等があれば、藤井先生にも補足して頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

阿部：私が樹林で楽しむという中で「広場」と書いたのは、まさにそういうことです。例えば高島平の駅前の交番の近くの交差点の辺りに樹林がありますが、あの角地などは、それこそ広場的に、足元をもう少し入れるようにして、例えば円形のたまりのような空間をつくるだけでも全く違ってくると思うのです。

それから、例えば森の中に、小さな居場所の様なものをつくってもいいと思います。夜でもやっているカフェが森の中にあって、そこで一杯、引っ掛けてから家に帰ります。そういうものがあると、防犯の目にもなっていきます。真っ暗な中を帰るのではなく、そういう人目があるというのが多分、防犯的な意味合いにもなっていくのではないかと思います。

それから、色々な会話が生まれてくるような場づくりです。それが広場や森の中で展開していくと、コミュニティも強くなっていくのではないかと感じました。

出口：ありがとうございます。人目があるまちにしていくというか、団地の中のあちこちに人目が行き届くようにしていくというのは、非常に防犯上も重要ですし、お互いにコミュニティをつくり、育てていく上でも非常に重要ではないかと思います。ありがとうございます。藤井先生、いかがでしょうか。

藤井：私が先ほどご紹介した建物の足元を変えている事例は、実は UR に非常に近い組織が関わっています。カナダでは国全体の公的な賃貸住宅を管理するところはありませんが、トロント市全体の住宅団地を管理している組織が持っている空きスペースを使っているので、もう誰の所有であるとか、誰が住んでいて管理をしなければいけないといった枠

組みをかなり取り払っています。地域全体の組織が、ここは地域のために使わせてほしいということで、本当にかなり自由に使っているわけです。高島平も、せっかく UDCTak ができたのであれば、ぜひ一步を踏み出して頂けるといいなと思ったりもします。

また、そういう活動には色々な費用がもちろんかかってくるのですが、それは外からの助成等をかなり取りながらやっています。他の大きな NPO が、こういう地域活動のためのお金を取ってきて、それを改装に使い、日常的な運営費は、その地域の中でプールしているお金を回すという様なことをしています。ですから最初の第一歩を誰が出すかというところは難しいので、外から適切なものを探してくるということがあると思いますが、そのように、場所を提供する人、力を提供する人、活動をする人という様な形で、皆でやっていると聞いています。

こういう場所は、誰のものだから誰しか参加できないという様にしてしまうと、やはりなかなか色々な人が自由に参加できず、居場所という形になりにくかったりもします。どこでも自由にどうぞということではないとは思いますが、何力所か開かれた場所ができて、今回はそこでやったから、次は別のところでという様に連鎖していくのかなと思います。

出口：ありがとうございます。やはり最初のきっかけづくりのようなものが大事で、初めにモデルをつくらないといけませんね。

この場ではなかなか答えが見つからないかもしれませんが、また一緒に研究していければと思います。

「民・学・公」連携に向けた課題

出口：かなり時間も差し迫ってしまったので、1人数分で、もう一言だけお願いしたいと思います。今回、「民・学・公」連携ということとを標榜したこのセンターを、いわゆる行政の外郭団体ではないセンターということでつくりましたが、「民」と「学」と「公」にそれぞれ役割があると思います。そういった役割、あるいはチームを組んでいくときの課題等について、お1人ずつご指摘頂ければと思います。飯塚先生、藤井先生、樋野先生、そして阿部先生ということをお願いしたいと思います。

飯塚：まず1つは既存の様々な地域活動があるということで、このUDCTakは、やはり強力な情報発信力を身に付けて、既存の地域活動を加速するような役割を担っていきたいと思います。インターネットにおけるYahoo!やGoogleの様に、地域活動のポータルサイトの役目を担えるといいのではないかと思います。

それから、誰もが集まりたくなる居場所づくりということで、先ほど申し上げたことですが、今、プロムナード整備のための事前の検討が始まっていると思います。まずはそのプロムナード整備のところから全世代が協力して、居場所になる様な空間をつくっていく活動をしていけたらいいと思います。

そして3点目は文化、芸術、学問の香り漂うまちづくりと書きましたが、どの様なまちを目指すかというときに、文化や芸術、学問のようなものがあるといいのではないかと思います。そのときにやはり、これは自分自身が頑張らなければということなのですが、地域にある大学である大東文化大学のやる気というのが一つの鍵になるのではないかと思います。

ます。そのためには、やはり個々の教員もそうですが、大学トップのリーダーシップもある程度は必要かなということで、そういう「学」に期待するところがあります。

それから4点目の内水・外水氾濫の発生に対応した避難マニュアルづくり。これは行政がつくるもの、「公」がつくるものというよりは、それぞれの地域や家庭でつくる様なマニュアルをイメージしています。それも「民・学・公」が連携してマニュアルづくりやワークショップを行う等して、地域の防災力を強化していくことができればいいなと思っています。以上です。

出口：はい、どうもありがとうございます。地元の大学として、大変に力強いお考えを打ち出して頂きました。大東文化大学はこれまでも色々とまちづくりに参画されてきたと思いますが、今回のUDCTakの設立を機に、より地域とのつながりを強めて頂ければと思います。また、飯塚先生にはぜひ、UDCTakのディレクターとして、その辺りの役割もお願いしたいと思います。それでは藤井先生、よろしいでしょうか。

藤井：繰り返しになるのですが、先ほど私は、この地域で幾つか課題と感ずることを挙げました。こういう課題は、よくよく考えてみるとつながっているというか、人が集まる場所をつくり、またそこで人が育ちという様なことをしていけば解決できる種類の課題だと思っています。ですので、やはり「民・学・公」がせっかく集まるのであれば、地域の方がその第一歩を踏み出せる様に背中を押してくれる、その様な場をつくって頂きたいと思いました。

何かやりましよう地域の方が最初に声を出すのは難しいかもれません。そのときに、やりませんかとお声掛けをしたり、デザイン

スクール等で専門家の人が色々なアイデアを出すだけではなく、どうすれば活動ができるのかというノウハウを地域の人と一緒に考え、こうすれば本当に人に声を掛けられる、或いはこういうことが今、必要ならばここに参加すればいいというのを地域の人が具体的にイメージできる様な場があるといいなと思います。また、何かやりたいといったときに、「公」はそれをできる器をぜひつくって頂きたいと思います。

その器というのは、例えば先ほど UR の土地をお借りして何か地域に開かれたものをといるときに、都市政策の規制の緩和等も含めて、できるだけ色々な制約を取り除いていくところに、ぜひ力を注いで頂きたいなと思います。

それから、共同花壇の活動等についても、声を掛けて下さる方は非常に数多くいますが、かなりの方が実は団地外の方だったりします。お花がきれいでとても喜んでいきます等おっしゃってくれて、ぜひ一緒にと言いたいのですけれども、お住まいが団地外だと、今はなかなか一緒にとは言いにくかったり、そういう色々な区分等を考えずに自由に活動できる様な場をつくることを、ぜひ「公」がバックアップして頂けるといいのではないかと思います。

出口：ありがとうございます。恐らくこれはどこの地域でもそうなのですが、住民の方の中にも、やる気持ちはあるけれども一歩が踏み出せないというのがあります。そういうきっかけづくりをこの UDCTak はぜひやっていければと思います。関心があるのだけれども、私が行っていいのかどうかと考えている方も結構いらっしゃると思います。そういう人たちを引っ張り出していくというと少し言葉が悪いかもしれませんが、或いは背中を押

すような、そういった出来事というか、イベント等も、ぜひつくり出していければと思うし、そういった活動も次々に増やしていければということで、それがまちの地域力につながっていくと思います。ありがとうございます。それでは樋野先生、お願いします。

樋野：藤井先生から共同花壇のお話が出ましたが、団地外の人でも参加できますので、ぜひ花壇活動に参加して下さい。

この写真は横浜の洋光台ですが、「CC ラボ」という、市民や住民の方が自由に使える場所がやはりあります。出口先生のお話でも、UDCK の拠点を紹介されました。私は先ほどから、居場所というのは必ずしも物理的な空間を伴わなくてもいいと話してきましたが、やはり目に見える場所があるというのは非常に強みになります。

ですから、イベント等色々な活動を仕掛けていくことも大事ですが、そうした拠点をつくっていくとか、プロムナードの様に目に見える形での改善が分かることが UDCTak のプレゼンスを示すことになるので、やはりこうした物理的な空間にも関与していくことが大事だと考えています。



いわゆる「ヒト・モノ・カネ・情報」の内の「情報」という部分を「公」と「民」に期待しています。例えば、あるイベントや事業をやるうとしたときに、色々な規制に引っ掛かります。そういうときに、どうすればいいのかと

いう情報を、行政や UR の方は豊富にお持ちだと思います。

それから、この団地のイメージを変えていくために情報発信していきたいというときも、「公」の力が必要です。そしてもちろん高島平新聞さんの様な「民」の力も大事になると考えています。

「学」という立場でいうと、我々教員も研究として関わるがありますし、学生が卒業論文や修士論文を書くということもありますが、その分析のためにも情報が必要です。行政は大量の情報を握っているわけです。も

ちろん個人情報等で出せない情報もあるとは思いますが、昨今のオープンデータの流れからすると、必要な情報を出してもらい、それらを分析して次の事業につなげていくといった循環が、この UDCTak の中でできればと思っています。

最後のスライドは本当におまけなのですが、2 年生の授業で、学生にグランドデザインと今回の UDCTak の概要を見せて、書かせたレポートを整理したものです。多かったのは、「若者は住みたくない」という意見です。若者が住みたいまちは、シニアが住みたいま

学生(2年生)の声

■ イメージ、ターゲット

- ・ **ブランディング、イメージ向上、PR、アピール** ⇒「ゆっくり」「緑」
- ・ コンセプト、アイデンティティを
- ・ **ターゲットが不明確**(二兎は追えない)、若者には不向き
- ・ 子育て世帯に特化:保育の質向上、近居促進、住替えできる町

■ コミュニティ活動

- ・ **高齢者の社会参加:技能の活用、防犯活動**
- ・ 排他的でないイベント
- ・ **コミュニティガーデン、花壇**

■ 必要な施設

- ・ **コンビニ、カフェ**
- ・ 子どもの屋内遊び場、キッズニア
- ・ 複合施設、大型店
- ・ スポーツ施設
- ・ **「職」の環境、オフィス誘致**



学生(2年生)の声

■ 住宅

- ・ 外観、舗装の刷新
- ・ シェアハウス、二戸一
- ・ 就活生向けの短期利用
- ・ 近隣大学がサークル活動で利用
- ・ Gated communityに

■ 交通

- ・ コミュニティバス
- ・ **高島通りに自転車専用レーン**
- ・ 地区内の車両進入禁止

■ UDCTakへ

- ・ ニーズ把握、住民の関与を
- ・ UDCTakという名称は浸透しない
- ・ **サマープログラムで全国の大学生の知恵を借りる**



ちや子育て世代が住みたいまちとはそもそも違うという前提で、彼らはレポートを書いていた。ブランディングやPR、コンセプト、アイデンティティといったことをしっかりとやっていくべきだという意見も多くありました。彼らは将来的には子育て世代になるわけですので、彼らの意見も貴重だと思います。キーワードとしては、「緑」もありますが、「ゆっくりなまち」を目指すというのではないかと思います。若者は好まないけれども、そういったまちをむしろ前面に出せば良いのではないかと思いますという意見です。

コミュニティ活動は先ほど申し上げたとおりです。あとは右上の方に「カフェ」と赤字で書いています。もちろんコミュニティカフェの様な住民の手づくりのカフェも必要なのですが、話を聞くと、やはり民間事業者がやっている様な格好の良いカフェが欲しいと考えています。高島平で比較的若いシニアの方とお話すると、民間のサバサバしたサービスがむしろ好きだという方のほうが実は多く、やはりそうしたものも必要だろうと思います。

それから職の環境です。確かに大手町まで

すぐに行けて便利なのだけでも、ここで働けると、例えば子育て等とも両立しやすいのではないかと思いますという意見です。

団地のイメージを刷新することが大事ではないかという意見もあります。これは取手のUR 団地ですが、東京藝大とタッグを組んで住棟の妻側にアートを施して、画一的なイメージを変えたという取り組みです。こうした取り組みも高島平で考え得ると思います。

交通の面では、高島通りに自転車専用レーンをつくったらどうかという意見があります。2020年に向けて、私も非常に賛同します。

それから UDCTak への意見もあります。結構辛辣な、「外部の人間が何を言えるのだ」というような意見や、ニーズ把握や住民の関与をしっかりとやって下さいという意見がありました。

また、大学という立場からすると、色々な学生が集まって泊まり込み、集中的にこの団地について考えるサマープログラムを催して、大東文化大学や東大、筑波大、更には全国の大学生の知恵を借りてはどうかという意見も出ました。

出口：それでは阿部先生、お願いします。



阿部：はい。何も新たに施設をつくらなくても、例えばキッチンカーのようなものを置いてもいいと思います。但し、そのための広場が必要となります。また、新宿や渋谷や品川で飲んでくるのではなく、早く帰りたくなるようなまちということで、スタンドでビールを1杯引っ掛けて家に帰るというようなつくりをしていくのもいいのではないのでしょうか。そのためには、色々なつながりというのが必要になると思います。

都市の緑というのは、私は緑に軸足を置いています。広大な緑から畑や公園、個人の家まで色々なスケールがあり、それに個人であったり自治体であったり、様々な主体が関わっていくわけです。その関わり方も多種多様です。その意味では、多彩なつながりというのが非常に大事なのではないかと思います。ですから自治体の中でも、公園は公園、道路は道路という縦割りではなく内部のつながりが必要です。それから民間と行政のつながり、そういった仕事のつながりが必要だと思っています。

また、先ほどのキッチンカーの話にしても、場所を提供する人とサービスをやる人のネットワークが必要です。そして今回、「民・学・公」連携ということで立ち上がりましたが、それぞれの中でばらばらになっているのではなく、それがつながっていくことも大事です。

それから空間のつながりです。道路から一歩入ると広場になっていて、そこは公園の用地であるとか、そういう空間的なつながりができていくと、かなり面白い緑の空間が実現してくるのではないかというようなことも思いました。ぜひ期待しています。

総 括

出口：はい、どうもありがとうございました。終了時間を少しオーバーしてしまいましたが、ご登壇頂いた方々から大変多くのご示唆と課題に対する指摘を頂きました。全体を一言でまとめるのはなかなか難しいのですが、幾つかキーワードも挙げて頂きましたので、皆さんと共有していきたいと思います。

UDCTak は本日、設立されましたが、どうもこのまちの強みは、既に沢山あるというのが今日のご意見だったと思います。まちの骨格はしっかりとしています。当然、団地として計画的につくられていますので、空間的な配置のバランスが非常によく取れているということです。

その一方で、やはりまちが成熟していく中で、住んでいる方々の変化や、また新しい方々を受け入れていくための素地をつくり出していかなければいけないというのが、今日の先生方のご指摘かと思っています。

環境的な資源としては、まさにプロムナードに象徴されるような自然があります。これを木へんに土の「杜」に変えていく、要するにもっと手を入れて人と関わりを持たせる必要があるだろうということです。住民の方や区民の方々が関わっていき、その空間を居場所にしていくといった取り組みが必要ではないかというご指摘を頂きました。

それから高島平は空間的な資源も豊富です。団地の足元周りにも空間がありますし、あるいはやや老朽化している部分もありますが、公共施設も揃っています。そういったことも含めて、幅広く団地全体あるいはこの地区全体の中の公共的な空間や居場所の空間について、この UDCTak の設立を機に、皆さんで見直してみることが必要かなと思います。

ぜひ、そういった取り組みを進めていきたい
と思います。

また、実は1週間前にプレイベントでこの
プロムナードの一部に屋台や露店を出して
オープンカフェを開設し、後ろの方でゾウの
形をした掲示板にポストイットで意見を貼っ
ていただきましたが、やはり今日のご指摘と同
様に、若い人とご年配の方とが交流する場や
機会が欲しいというような意見が挙げられて
いました。そういった意見も踏まえ、今日の
居場所というキーワードを切り口にして、
UDCTakの活動を進めていければと思います。

それから、何よりも人の資源というのは、
実は高島平には極めて数多くいらっしゃる
と思います。本当に色々なグループの方々が多彩な活
動をされています。これを束ねて地域の魅力
にするために、そういった活動を横につない
でいく必要性というものを今日は強調して頂
だいたと思います。やはり最終的にはまちと
いうのは人が資源ですので、そういった人の
活動の裾野を広げていかななくてはいいませ
ん。まだ実は眠っている人の資源が、この高
島平にはたくさんいらっしゃるのではないかと
思います。様々な特技を持つ方等多彩な人
材が実はいらっしゃると思いますので、そう
いった人達がまちづくりを楽しんでいけるよ
うなまちにしていきたいというのが第一で、
それを文化まで育てていくことが重要ではな
いかという飯塚先生のご指摘もありました。

そのように、空間は非常にしっかりしてい
ますので、そこを人が生き生きと活躍できる
ようなまちに仕立て上げていこうというのが
皆さんの共通した意見だと思いますし、具体
的にはそういった空間を、人気がある、人目
があるまちにしていく、そのためにはどうい
う仕掛けをしていけばいいかというのが
UDCTak に課せられた課題だというご指摘を

頂いたのだと思います。

雑駁ではありますが、これをまとめとして、
このシンポジウムを終了させて頂きたいと
思います。限られた時間でしたが、ご登壇の
先生方には本当に熱心なご意見、ご議論をあ
りがとうございました。

また、今日は多数の方に会場にお越し頂
きました。本当は会場からのご意見を頂たく
時間があればと思ったのですが、残念ながら
今日はそういう時間を取れませんでした。ま
た UDCTak の開設を機に、そういった機会を
つくっていければと思いますので、今後とも
よろしくお願いいたします。

それでは進行を司会のほうにお返ししたい
と思います。

司会：出口先生、パネリストの皆様、ありが
とうございました。もう一度拍手をお願いし
ます。

以上で本日のイベントは全て終了となりま
す。これからアーバンデザインセンター高島
平を運営していくに当たっては、本日ここ
にお集まりいただきました皆様のお力添えが不可
欠です。今後ともご理解ご協力のほどをよろ
しくお願いします。

本日はお忙しい中、長時間にわたりご参加
をいただき、誠にありがとうございました。こ
れにてアーバンデザインセンター高島平設立
記念イベントを終了します。

会場の様子



パネル展示



模型展示



高島平みらいゾウ



カフェコーナー



会場全体の様子



いっぴん会のコーナー

3 「高島平みらいゾウ」 アンケート結果

「高島平みらいゾウ」によるアンケート

UDCTak の設立プレイベント及び設立記念イベントにおいて、「高島平みらいゾウ」によるアンケート調査を行いました。

＜調査日時＞

10月30日（日）10時～16時

11月6日（日）13時45分～16時15分

＜調査方法＞

付箋に以下のテーマについてコメントを書き、みらいゾウに貼付してもらう。

- ①未来の高島平はどんなまち？（まちの将来像）
- ②高島平の好きなところ
- ③高島平緑地でしたいこと

＜サンプル数＞ 177 枚

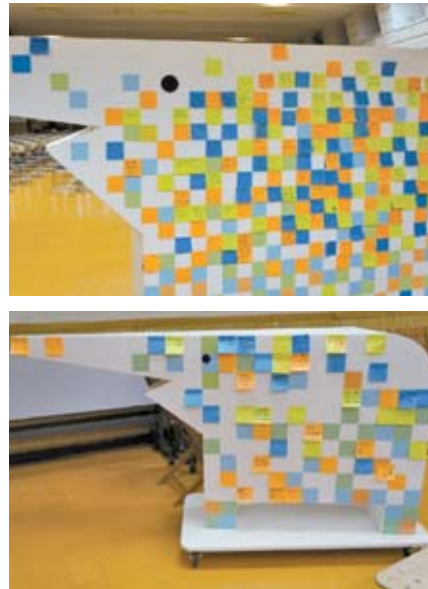


図1：親和図法によるアンケート結果の整理・分類

①未来の高島平（まちの将来像）③緑地でしたいこと ※（ ）内は票数を記載



※親和図法

アンケートの自由回答等を相互の関連によってグループ化し、整理、分類、体系化する方法。

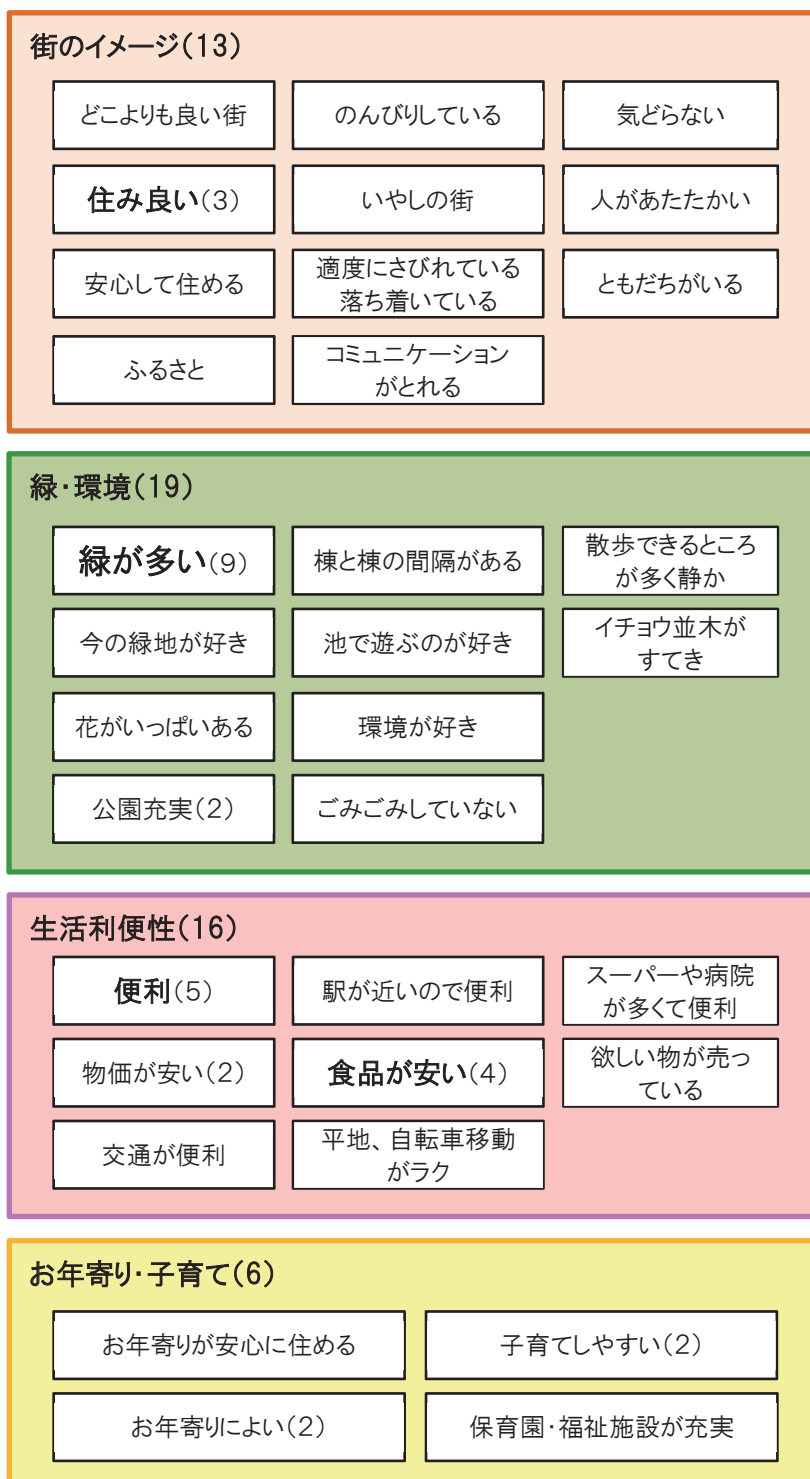
まちの将来像としては、若い人の増加を望む一方でお年寄りが生活しやすいまちへいう声も多く、更にそうした世代間の交流を望む声もありました。

また、人が集まる、楽しめる等、街の活性化の他に、美化、安心安全、良好なコミュニティ等を望む声がありました。

緑については、自然豊かな環境に加え、特に緑地について、カフェ等の飲食店での活用のアイデアに加え安全安心や防犯を望む声がありました。

その他に、既に実施されているお祭り等のイベントも評価されているようです。

図2：親和図法によるアンケート結果の整理・分類
②高島平の好きなところ ※（ ）内は票数を記載



高島平の好きなところとしては、住み良い、便利、緑が多いといった住環境の良さが評価されています。また、ふるさと、のんびりしている、人があたたかい等、落ち着いたまちとしても高く評価されています。

利便性については、物価の安さ、スーパーや病院の立地などに加え、交通利便性も高く評価されています。

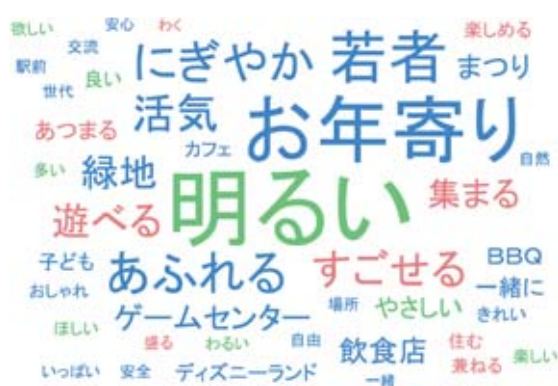
参考として行ったテキストマイニング(※)による分析では、まちの将来像ではお年寄り、

若者、明るい、活気、にぎやか、あふれる等が、高島平の好きなところでは、みどり、便利、豊か、交通、買物といったキーワードが抽出されました。

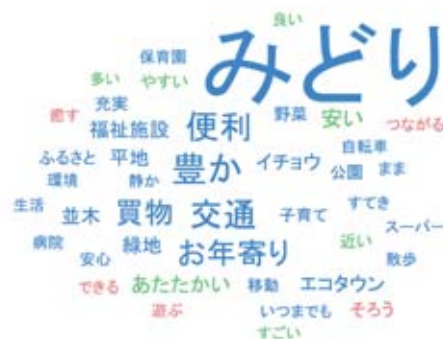
以上のアンケート結果から、高島平は緑豊かで生活しやすい環境が評価されているものの、若者の増加や飲食店などによるにぎわいや活性化、若者とお年寄りの交流等が望まれていることがわかりました。

図3：テキストマイニングによる分析（ワードクラウド）

出現数の多い単語を抽出し、値に応じた大きさを図示。色は品詞に対応している。（青：名詞、緑：形容詞、赤：動詞）



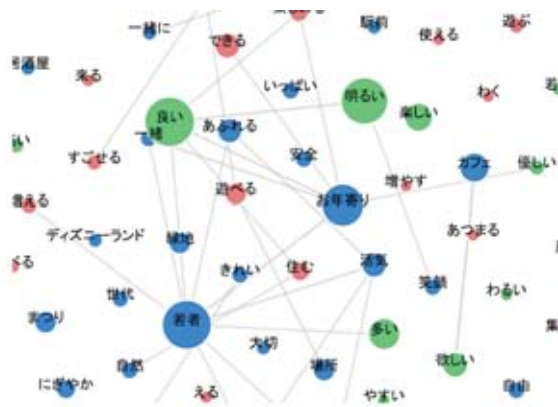
①未来の高島平（まちの将来像）+③緑地でいたいこと



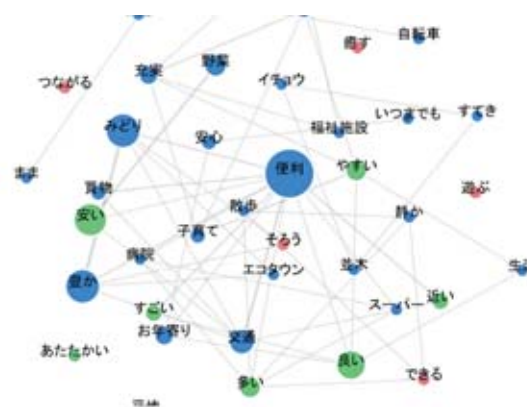
②高島平の好きなところ

図4：テキストマイニングによる分析（共起ネットワーク）

出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多いほど大きく、共起の程度が強いほど太い線で描画。



①未来の高島平（まちの将来像）+③緑地でいたいこと



②高島平の好きなところ

※テキストマイニング

アンケートの自由回答等を単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や共出現の相関、出現傾向、時系列等を解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法。

本調査では、株式会社User Localのフリーのテキストマイニングツールを使用して分析

4 高島平プロムナード基本構想（素案）の検討

高島平プロムナード基本構想（素案）への提案・提言に向けた検討

板橋区ではランドデザインの実現に向けた、都市再生の取り組みの第一弾として、「緑とにぎわい」の都市空間をデザインしたプロムナード（散策道）の整備が掲げられています。

「高島平プロムナード基本構想」（以下「基本構想」という）は、新たな時代のニーズに応え、都市再生を先導するプロジェクトとして、防災とも連携しつつ、いきいきとした人々の活動が生み出されるようにプロムナードを再整備していくための基本的な考え方を示すものとなります。そのため、区の策定する基本構想への提案や提言を挙げるべく、研究プロジェクトを立ち上げることにしました。

検討については、UDCTak の設立に先行する形で、「民・学・公」のメンバーで構成する「プ

ロムナード研究部会」（以下、「研究部会」という。）を設置して取り組みました。

プロムナード研究部会（◎リーダー）

・構成：15名

（学）◎ 東京大学大学院 中島直人 准教授

大東文化大学 飯塚裕介 講師

東京農業大学 阿部伸太 准教授

（民） 町会連合会 高島平支部長

商店街連合会 第七支部長

肢体不自由児者父母の会会長

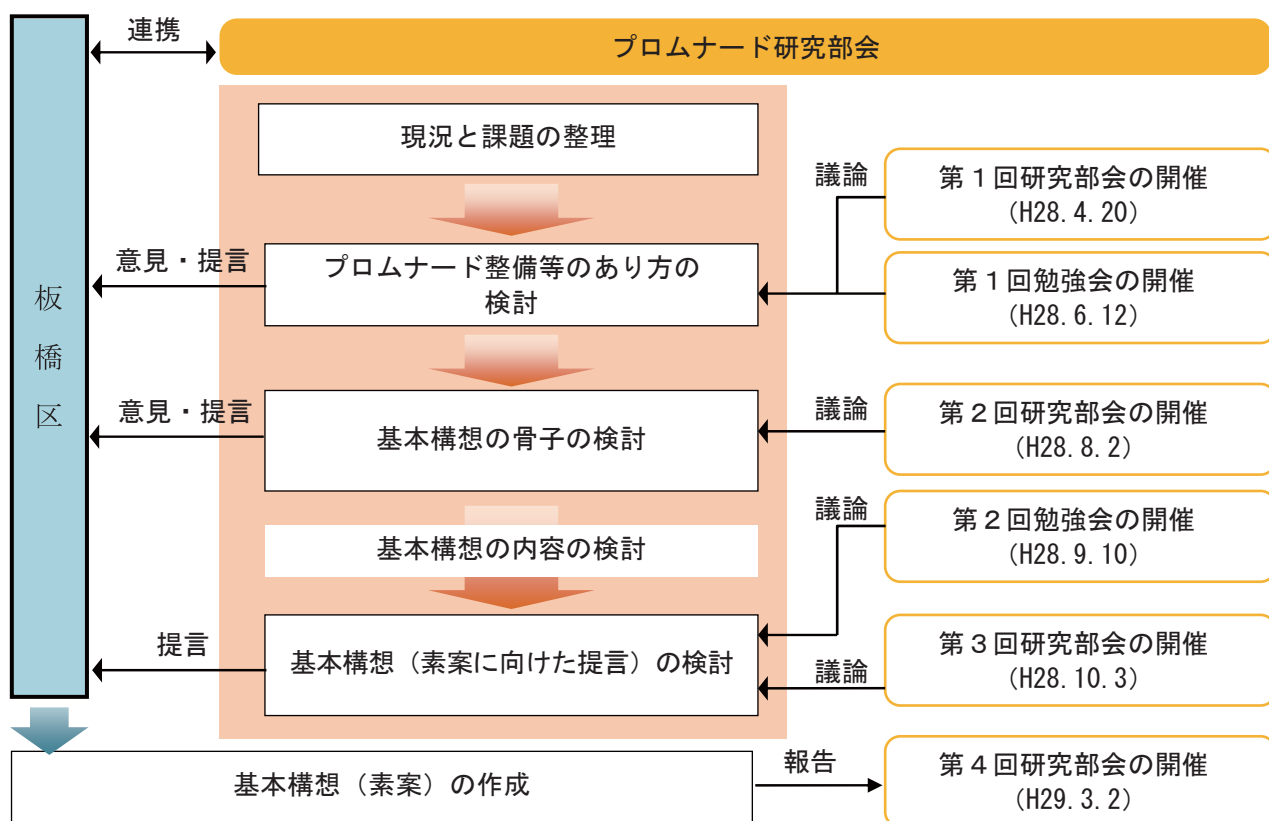
公募委員（5名）

（公） UR都市機構 東京北エリア経営部

団地マネージャー

板橋区区職員（3名）

<高島平プロムナード基本構想 検討体制・検討経過>



プロムナード勉強会 開催概要

研究部会の下部組織として一般参加型の勉強会を設置し、区ホームページや町会・自治会掲示板へのポスター掲示等を通じて、広く声かけを行い、都市再生に関心のある地域住民や大学生等も交えて「まち歩き」や「ワークショップ」、「学生提案」などを通じた意見交換を行いました。プロムナード基本構想の策定に向けて住民（公募）、地域活動団体、

大学、行政機関などをメンバーとして立ち上げられた「プロムナード研究部会」による取組として、研究部会有志に希望する住民や学生を加えた勉強会を開催し、プロムナードの持つ魅力や課題を再認識しながら、プロムナード整備のあり方や効果的な活用方法などを検討しました。

<第1回勉強会>

開催日時：平成28年6月12日（日）

午後1時～5時10分

場 所：高島平団地2-32-2号棟 集会所 u2・3

内 容：① ディスカバリーウォーク（まちあるき）

② プロムナードについての意見交換

- ・魅力的な所
- ・改善が必要な所
- ・やってみたい（真似したい）使い方・過ごし方
- ・自分ができること

参 加 者：37名

（[民] 13名、[学] 17名、[公] 7名）

（6班に分かれて、まち歩き及び意見交換を実施）



<第2回勉強会>

開催日時：平成28年9月10日（土）

午前10時15分～12時15分

場 所：高島平地域センター 第一洋室

内 容：① 東京大学演習課題成果発表

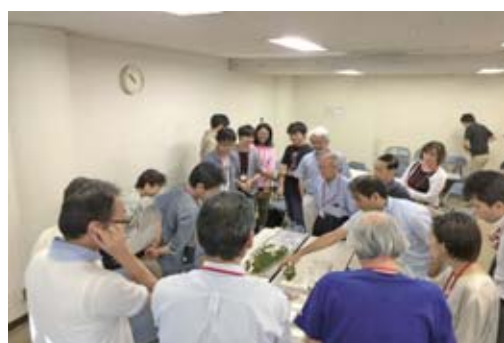
② 高島平プロムナード基本構想（提言に向けた素案）についての意見交換

- ・整備方針
- ・ゾーンごとの整備方針

参 加 者：29名

（[民] 7名、[学] 13名、[公] 6名）

（4班に分かれて意見交換を実施）

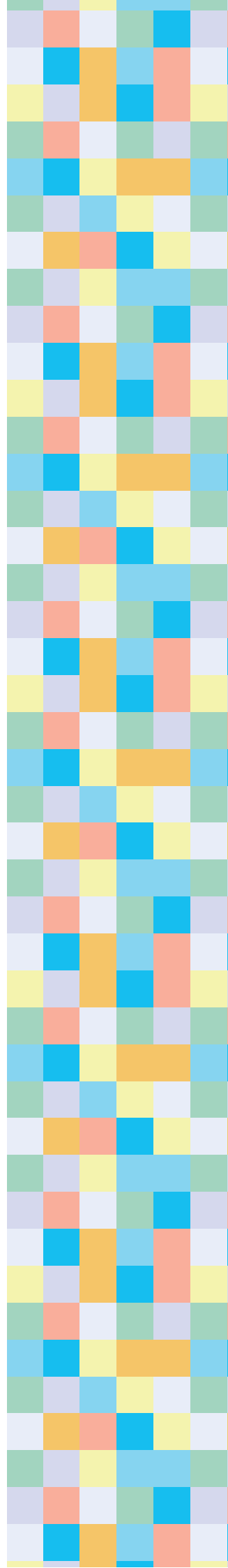


UDCTak

アーバンデザインセンター高島平

問い合わせ先 ▶ 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号
都市整備部 高島平グランドデザイン担当課
電話番号：03-3579-2183 FAX 番号：03-3579-5437
E メール：takamachi@city.itabashi.tokyo.jp

facebook ▶ facebook で最新情報を発信しています。
「UDCTak」で検索し、 いいね! をクリック！



UDCTak

アーバンデザインセンター高島平

2017年7月発刊